

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書の訂正届出書
【提出先】	関東財務局長 殿
【提出日】	2019年3月15日提出
【発行者名】	カレラアセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 立花 正人
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋兜町10番3号
【事務連絡者氏名】	秋永 芳郎
【電話番号】	03 - 5652 - 7290
【届出の対象とした募集内国 投資信託受益証券に係る ファンドの名称】	3つの財布 欧州リートファンド
【届出の対象とした募集内国 投資信託受益証券の金額】	継続申込期間（2018年9月15日から2019年9月13日まで） 5,000億円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当ありません。

【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

本日付で有価証券報告書を提出しましたので、2018年9月14日付をもって提出した有価証券届出書（以下「原届出書」といいます。）の関係情報等を更新するため、また、その他の情報について訂正を行なうため本訂正届出書を提出いたします。

【訂正の内容】

原届出書の該当内容は、以下の内容に訂正いたします。下線部_____は訂正部分を示します。

第一部【証券情報】**（7）【申込期間】****<訂正前>**

継続申込期間 平成30年9月15日から平成31年9月13日まで

ただし、継続申込期間中であってもフランス、オランダ、イギリス、ドイツ、アメリカまたはアイルランドの証券取引所または銀行のいずれかの休業日には、原則として、取得のお申込みの受付はできません。

（継続申込期間は、上記の期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。）

<訂正後>

継続申込期間 2018年9月15日から2019年9月13日まで

ただし、継続申込期間中であってもフランス、オランダ、イギリス、ドイツ、アメリカまたはアイルランドの証券取引所または銀行のいずれかの休業日には、原則として、取得のお申込みの受付はできません。

（継続申込期間は、上記の期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。）

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

（1）【ファンドの目的及び基本的性格】

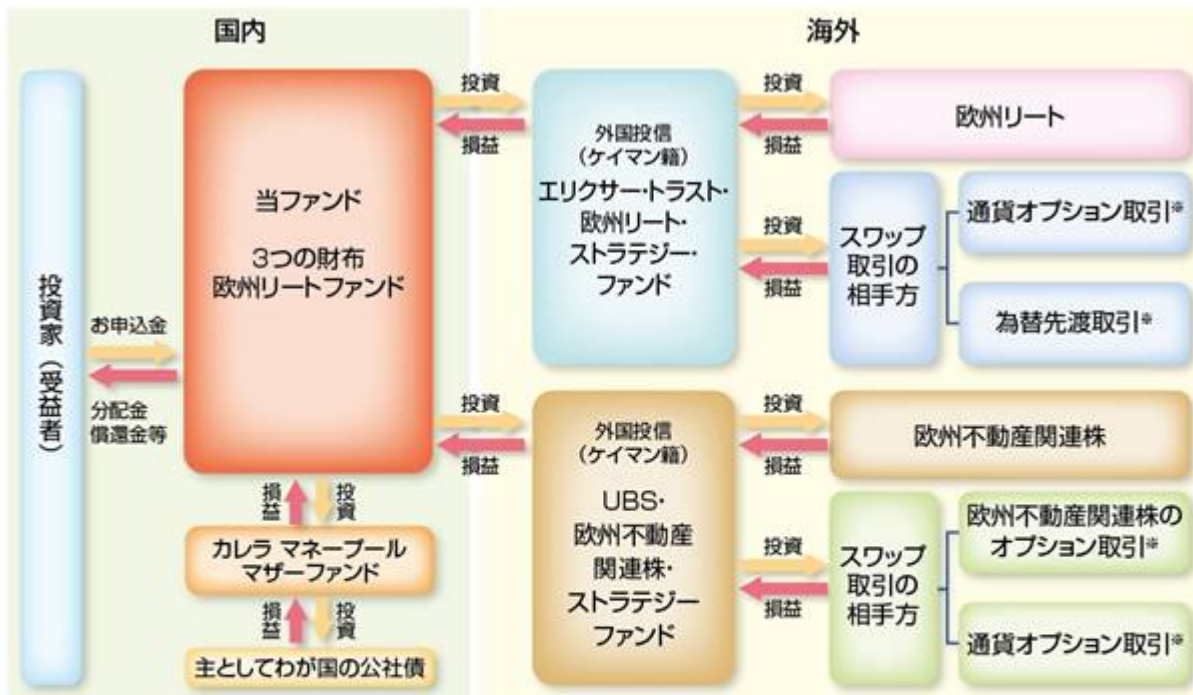
<訂正前>

（略）

<ファンドの特色>

主として外国投資信託受益証券への投資を通じて、実質的に欧州の金融商品取引所に上場している不動産投資信託受益証券(リート)、不動産株式、建設関連株式等（以下「欧州リート等」といいます。）に投資することにより、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指すとともに、欧州リート等のオプション取引ならびに通貨オプション取引の投資成果を享受することを目指して運用を行います。なお、エリクサー・トラスト・欧州リート・ストラテジー・ファンド受益証券において、主な非ユーロ建資産については、実質的に非ユーロ通貨売りユーロ買いの為替先渡取引の投資成果を享受することを目指して運用を行います。

<ファンドの仕組み>

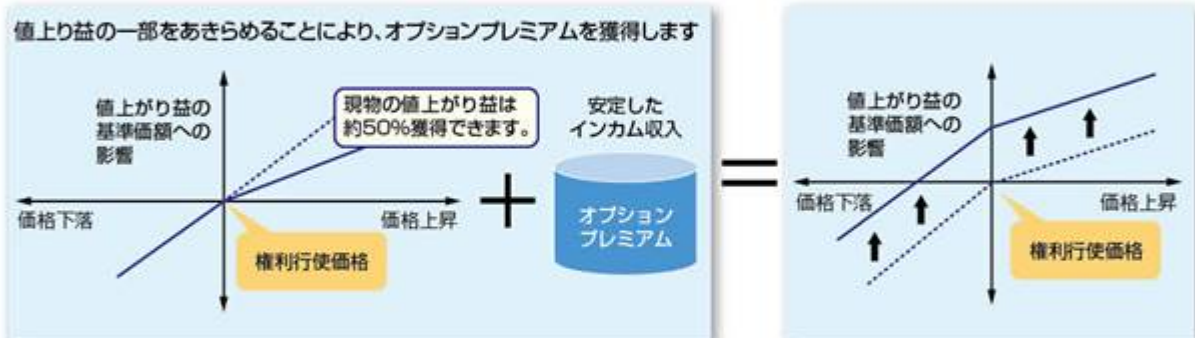


※当ファンドは、それぞれの外国投資信託が運用の基本方針等で定めている「欧州リート」と「欧州不動産関連株」を併せて、「欧州リート等」と定めます。
 ※当ファンドが投資対象とする外国投信「エリクサー・トラスト・欧州リート・ストラテジー・ファンド」は、ドイツ銀行ロンドン支店を相手方とするスワップ取引を通じて、通貨オプション取引および為替先渡取引の損益を受け取ります。
 （当該投資先ファンドにおける欧州リーートのオプション取引については、平成30年2月に管理会社（ムア・マネジメント（パミュダ）リミテッド）の通知により中止いたしました。）
 ※当ファンドが投資対象とする外国投信「UBS・欧州不動産関連株・ストラテジー・ファンド」は、UBS銀行ロンドン支店を相手方とするスワップ取引を通じて、欧州リート等のオプション取引、通貨オプション取引の損益を受け取ります。

戦略の解説

- ①欧州リート等を実質的な投資対象とします
- ②3つのインカム性収益を獲得する戦略を行います
- ③欧州リート等と為替の値上がり益を期待できる戦略です

コールオプション売り戦略の基準価額への影響



※上記は当ファンドの戦略に対する説明の一部であり、すべてを網羅したものではありません。
 ※上記は現物の資産に対し約50%の割合でコールオプションの売りを行った場合の、1つの権利行使期間における損益のイメージを示したものであり、当ファンド全体の実際の損益を示したものではありません。
 ※市場流動性・環境により50%から大きくかい離する場合があります。

- 2種類のコールオプション売りはレバレッジをかけるためのオプション取引ではありません。
- 各銘柄ごとの欧州リート等および通貨の値上がりを100%抑えるわけではありません。

（略）

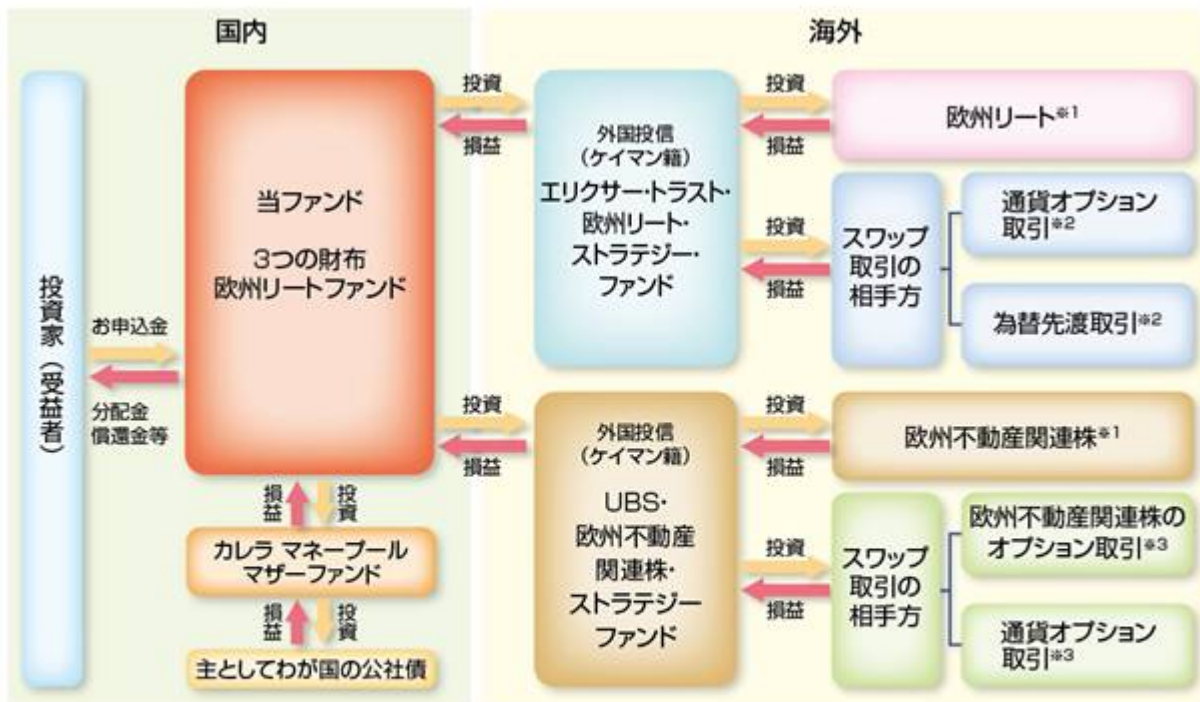
<訂正後>

（略）

<ファンドの特色>

主として外国投資信託受益証券への投資を通じて、実質的に欧州の金融商品取引所に上場している不動産投資信託受益証券(リート)、不動産株式、建設関連株式等（以下「欧州リート等」といいます。）に投資することにより、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指すとともに、欧州リート等のオプション取引ならびに通貨オプション取引の投資成果を享受することを目指して運用を行います。なお、エリクサー・トラスト・欧州リート・ストラテジー・ファンド受益証券において、主な非ユーロ建資産については、実質的に非ユーロ通貨売りユーロ買いの為替先渡取引の投資成果を享受することを目指して運用を行います。

<ファンドの仕組み>



※1 当ファンドは、それぞれの外国投資信託が運用の基本方針等で定めている「欧州リート」と「欧州不動産関連株」を併せて、「欧州リート等」と定めます。

※2 当ファンドが投資対象とする外国投信「エリクサー・トラスト・欧州リート・ストラテジー・ファンド」は、ドイツ銀行ロンドン支店を相手方とするスワップ取引を通じて、通貨オプション取引および為替先渡取引の損益を受け取ります。
(当該投資先ファンドにおける欧州リーートのオプション取引については、2018年2月に管理会社（ムア・マネジメント（バミューダ）リミテッド）の通知により中止いたしました。)

※3 当ファンドが投資対象とする外国投信「UBS・欧州不動産関連株・ストラテジー・ファンド」は、UBS銀行ロンドン支店を相手方とするスワップ取引を通じて、欧州リート等のオプション取引、通貨オプション取引の損益を受け取ります。

戦略のポイント

1. 欧州のリート、不動産株式、建設関連株式(以下「欧州リート等」といいます)に投資します
 - ①多種多様な国家が集まる世界最大の経済圏のひとつで安定成長が続くと期待されるEU圏を中心とした欧州に投資します。
 - ②収益改善と安定成長が期待できる欧州リート等に投資します。EU圏の拡大・成長を期待し、実質的にユーロ建てで投資します。
※組入銘柄のうちイギリスのポンド建てのリートについてはポンド売りユーロ買いの為替先渡取引を行い、ポンドのユーロに対する為替変動リスクを低減します。
2. 3つのインカム性収益を獲得する戦略を行います
 - ①欧州リート等に投資することで、配当性収益の獲得を目指します。
 - ②欧州リート等の銘柄毎のカバードコール戦略(欧州リート等の現物の買いとコールオプション^{※1}の売りを行うこと)でオプションプレミアム^{※2}の獲得を目指します。
 - ③通貨カバードコール戦略(円に対するユーロのコールオプションの売りを行うこと)でオプションプレミアムの獲得を目指します。
※1 コールオプションとは、対象資産(このファンドでは欧州リート等、通貨)を特定の価格(権利行使価格)で特定の日(満期日)に買うことができる権利をいいます。
※2 オプションプレミアムとは、オプションの買い手が売り手に支払う対価をいいます。
3. 欧州リート等と為替の値上がり益を期待できる戦略です
 - ①欧州リート等のカバードコールは、投資している各銘柄の50%程度、通貨カバードコール(ユーロのコールオプション売り)は通貨資産の50%程度とします。
 - ②50%を基本とする[※]パーシャルヘッジ(部分的なカバードコール)ですので、各銘柄ごとに値上り益、円に対するユーロ値上がり益を期待できる戦略です。
※各銘柄を対象としたコールオプション売りは、流動性が少ない銘柄もありますので、全体では50%から大きくかい離することがあります。
※「エリクサー・トラスト・欧州リート・ストラテジー・ファンド」における欧州リートのカバードコールについては、2018年2月に管理会社の通知により中止いたしました。

魅力的な欧州への投資

積極的な財政投資による物流効率化

- EU圏では、EU加盟国のそれぞれの国家予算で執行する財政投資に加えて、EU政府による財政投資が存在
- 高所得国がEU政府予算を負担し、所得水準が相対的に低い加盟国にEU政府として財政投資を執行
- 乗数効果(波及効果)の点で優れた効果を発揮
- 財政投資による交通インフラ整備によって物流が効率化

EUのボーダレスによる経済活性化

- EU域内の関税の撤廃と自由な移住、共通通貨ユーロの利便性
- 自由なオフィス、工場配置による労働コストの最適化と物流コストの極小化
- 観光産業が活性化し、重要性が増加



期待される統合効果

金融統合により世界最大級のブロック圏が完成に近づき、一体化した政治・経済政策による規模・効率性をともなった安定成長を期待

欧州リート等への投資の狙い

- EU統合による効果を期待

一体化した効率的な運営により欧州経済の回復・安定成長持続が期待されます。

フェーズ1 ECBの量的金融緩和
2015年3月開始の量的金融緩和により金利低下、資産価格(不動産・株式)の上昇が期待されます。

フェーズ2 欧州主要国の財政出動による景気浮揚対策を期待
プライマリーバランス(基礎的財政収支)改善により、景気対策として財政出動余力が高まり、公共インフラ投資等により建設関連株式の上昇が期待されます。

フェーズ3 景気回復およびインフレトレンド時における再度の資産価格上昇期待
インフレヘッジ資産としての不動産と株式が評価されると予想します。

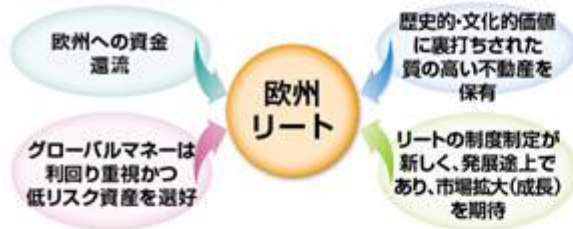
◆上記のいかなる内容も将来の成果を示唆・保証するものではありません。

エリクサー・トラスト・欧州リート・ストラテジー・ファンドのポイント

※当該投資先ファンドでは、欧州の金融商品取引所に上場している不動産投資信託受益証券を「欧州リート」と定めています。

なぜ欧州リート

● リートの魅力



● リートとは

米国の不動産投資信託 (Real Estate Investment Trust) の頭文字をとったものです。イギリスではUKリート、フランスではSIIICなどと国によって呼称が異なります。

多数の投資家から集めた資金でオフィスや住宅などの不動産を購入し賃貸料や売却益を配当として投資家に還元します。

主要地域リート・不動産関連株式の価格推移
(2008年1月～2019年1月)



出所：ブルームバーグ社データよりカレラAM作成（2019年1月末現在）

主要地域リート・不動産関連株式の予想PBR推移
(2008年1月～2019年1月)



出所：ブルームバーグ社データよりカレラAM作成（2019年1月末現在）

投資対象の欧州上場リート市場規模

国名	時価総額 (兆円)	上場銘柄数	制定時期
フランス	8.8	28	2003年
イギリス	7.8	53	2007年
スペイン	2.7	64	2009年
ベルギー	1.7	17	1995年
ドイツ	0.5	6	2007年
アイルランド	0.3	3	2013年
オランダ	0.3	3	1969年
イタリア	0.1	4	2007年

ご参考

国名	時価総額 (兆円)	上場銘柄数	制定時期
アメリカ	127.9	250	1960年
日本	13.6	61	2000年
オーストラリア	9.9	53	1971年

出所：ブルームバーグ社データよりカレラAM作成（2019年1月末現在）

欧州リーートの主要銘柄

銘柄名	登録国	企業内容	配当利回り (12ヶ月)
ユニベイル・ロダムコ・ウェストフィールド	フランス	多角的不動産事業を展開	6.87%
ランド・セキュリティーズ・グループ	イギリス	ロンドンを中心とした不動産事業	4.13%
クレビエール	フランス	商業モールなどを欧州各国で展開	5.44%
ブリティッシュ・ランド	イギリス	オフィス・商業施設など多角経営	2.61%
セグロ	イギリス	オフィスなどのビジネス物件を展開	5.33%
ジェシナ	フランス	主にオフィス物件を手掛ける	6.54%
ハマソン	イギリス	商業施設などを保有	6.96%
マーリン・プロパティーズ	スペイン	物流・小売・ホテル施設などを保有	3.93%
コピビオ	フランス	ホテル・物流施設などを手掛ける	4.21%
ダウセント・ロンドン	イギリス	ロンドンの商業ビル・住宅などを保有	5.04%

出所：ブルームバーグ社データよりカレラAM作成（2019年1月末現在）

※配当利回りは過去の実績に基づく予想配当利回りです。

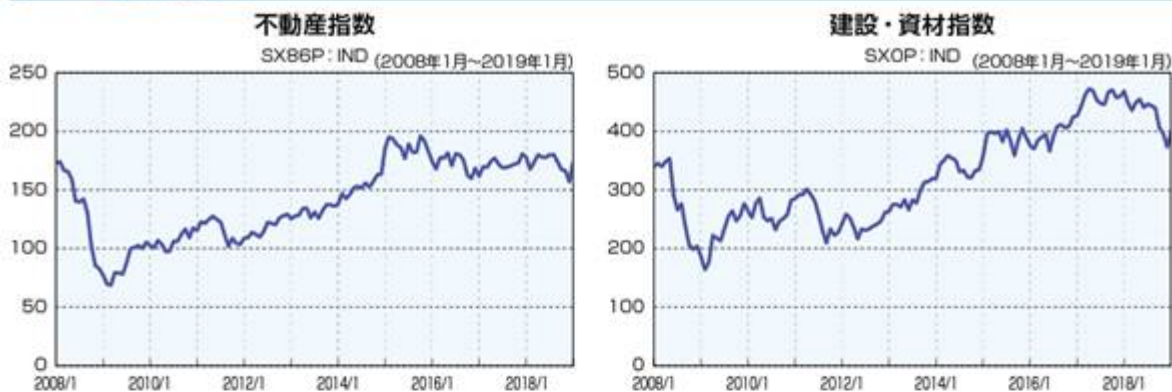
投資顧問会社（ドイチェ・アセット&ウエルス・マネジメント・インターナショナルGmbH）は
欧州リーートの投資にあたっては、主要な欧州リート指数を参照して運用を行います。

◆上記のいかなる内容も将来の成果を示唆・保証するものではありません。

UBS・欧州不動産関連株・ストラテジーファンドのポイント

※当該投資先ファンドでは、欧州の金融商品取引所に上場しているユーロ圏の不動産投資信託受益証券(リート)、不動産株式、建設関連株式等を「欧州不動産関連株」と定めています。

参照指数



出所：ブルームバーグ社データよりカレラAM作成(2019年1月末現在)

モデルポートフォリオ構築方法



セクター別主要投資対象銘柄

セクター	銘柄名	国	企業内容
リート	ユニペイルロダムコ・ウェストフィールド	フランス	多角的不動産事業を展開する欧州最大級のリート
	クレビエール	フランス	商業モールなどを欧州各国で展開
	ジェシナ	フランス	主にオフィス物件を手掛ける
不動産株式	ヴォノヴィア	ドイツ	ドイツ最大の不動産開発会社
	ドイチェ・ヴォーネン	ドイツ	住宅用不動産の開発・賃貸を手掛ける
建設関連株式	ヴァンシ	フランス	土木・建築など世界有数の建設会社
	サンゴパン	フランス	ガラス・高機能材料等の建材製造会社
	CRH	アイルランド	セメント・外装用資材などの建設資材メーカー
	フェロビアル	スペイン	高速道路・空港などのインフラ建設会社
	ハイデルベルグセメント	ドイツ	ドイツに本社を置く大手セメント会社

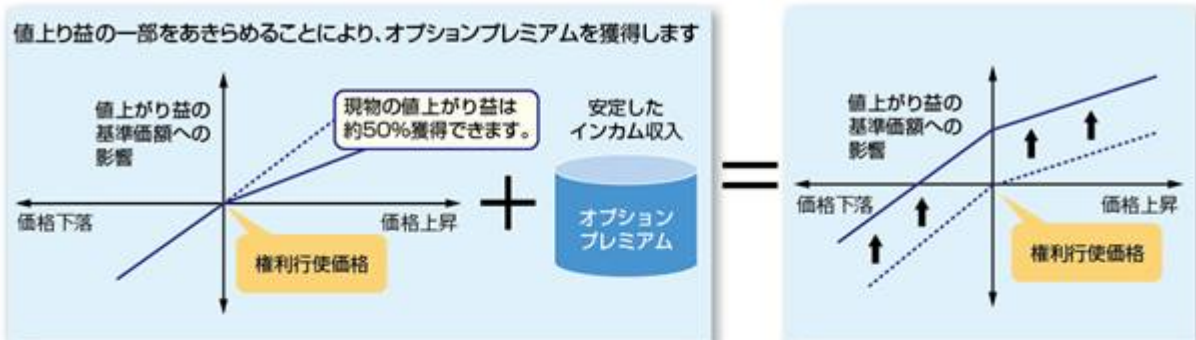
出所：ブルームバーグ社データよりカレラAM作成(2019年1月末現在)

◆上記のいかなる内容も将来の成果を示唆・保証するものではありません。

戦略の解説

- ①欧州リート等を実質的な投資対象とします
- ②3つのインカム性収益を獲得する戦略を行います
- ③欧州リート等と為替の値上がり益を期待できる戦略です

コールオプション売り戦略の基準価額への影響



※上記は当ファンドの戦略に対する説明の一部であり、すべてを網羅したものではありません。
 ※上記は現物の資産に対し約50%の割合でコールオプションの売りを行った場合の、1つの権利行使期間における損益のイメージを示したものであり、当ファンド全体の実際の損益を示したものではありません。
 ※市場流動性・環境により50%から大きくかい離する場合があります。

- 2種類のコールオプション売りはレバレッジをかけるためのオプション取引ではありません。
- 欧州リート等の各銘柄および通貨の値上りを100%抑えるわけではありません。

エリクサー・トラスト・欧州リート・ストラテジー・ファンドの戦略と収益のイメージ(例)

※当該投資先ファンドでは、欧州の金融商品取引所に上場している不動産投資信託受益証券を「欧州リート」と定めています。

下記の収益率・投資比率は、全て投資先ファンドにおける比率で当ファンドの比率とは異なります。



※当該投資先ファンドにおける欧州リートのオプション取引(欧州リートのコールオプションの売却)は、2018年2月に管理会社の通知により中止いたしました。

※上記はイメージであり、通貨カバードコール戦略の比率は市場流動性・環境等により上記の数字から大きくかい離する場合があります。通貨カバードコール戦略によりオプションプレミアムの確保が期待できる一方、リートの価格変動や為替レートの変動等により損失を被ることがあります。

※インカム性収益は性格の異なる2つの収益の合計です。リート投資、通貨のコールオプションにはそれぞれ異なるリスクがあります。

※配当金・オプションプレミアムの水準はあくまで目安であり、実際の市場環境により変動します。また、インカム性収益は投資先ファンドにおける水準であり、当ファンドの分配率とは異なります。(収益率は、当ファンドの投資先ファンドにおいて保有するリートとその対価(通貨)に対する比率で、すべて年率です。また、手数料、取引コスト、税金等は考慮していません。)

出所 ※配当金はブルームバーグのデータを基にカレラAM作成

※リートプレミアム、通貨プレミアムはドイツ銀行グループ提供の2019年1月18日のデータを基に、概算値をカレラAM算定

◆上記のいかなる内容も将来の成果を示唆・保証するものではありません。

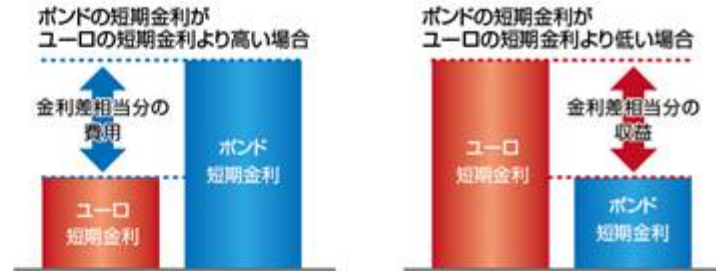
為替先渡取引について

当ファンドの投資先ファンドでは、ボンドのユーロに対する為替変動リスクの低減を図るため、スワップ取引を通じて為替先渡取引を行います。

為替先渡取引とは

- 将来において、ある通貨を購入、あるいは売却する価格、数量を現時点であらかじめ契約する取引です。
- 通常、預貯金などの金利は国によって異なります。為替先渡取引は、取引される将来の為替レートに不公平（通貨の交換による有利・不利）が生じないように、交換される2通貨の金利差が考慮された為替レート（フォワードレート）が現時点で決まります。

ボンド売りユーロ買い取引による金利差相当分の費用、収益のイメージ



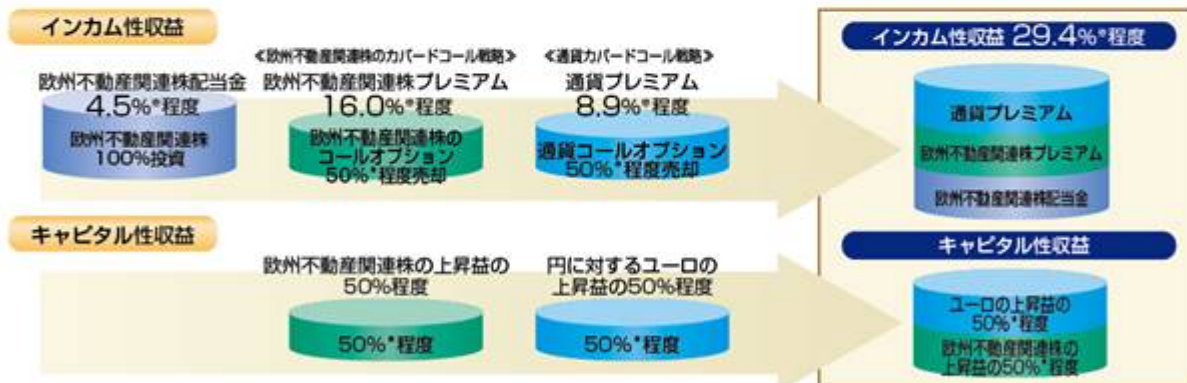
※2019年1月末現在の金利差相当分の費用は、年率0.59%程度です。おおよそボンドの1ヵ月短期金利とユーロの1ヵ月短期金利の差額を基に、簡便的に計算しています。（ブルームバーグ社データよりカレラAM試算）

- ※上記は、為替先渡取引の費用/収益について理解を深めいただくためのイメージ図です。
 ※為替先渡取引による金利差相当分の費用/収益は、ボンドとユーロの短期金利差などの変化を受けて変動します。
 ※上記は短期金利差を用いた簡便な方法により試算したもので、実際とは異なる場合があります。
 ※上記金利差の計算に用いた金利は、先物為替レート等を概算する際の目安として参照する金利であり、実際に為替取引を行う先物為替等の市場値から逆算される金利とは異なる場合があります。したがって上記の2通貨間の金利差から計算される為替先渡取引による費用/収益相当額が、実際のファンドで生じる為替先渡取引による費用/収益と同一になるとは限りません。
 ※為替先渡取引を行う際に、当ファンドの投資先ファンドが保有するボンド建資産額と為替先渡取引額を一致させることができない可能性があります。
 ※将来の為替先渡取引による費用/収益の数値を保証するものではありません。
 ※ボンドとユーロ間の為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

UBS・欧州不動産関連株・ストラテジーファンドの戦略と収益のイメージ(例)

※当該投資先ファンドでは、欧州の金融商品取引所に上場しているユーロ圏の不動産投資信託受益証券(リート)、不動産株式、建設関連株式等を「欧州不動産関連株」と定めています。

下記の収益率・投資比率は、全て投資先ファンドにおける比率で当ファンドの比率とは異なります。



- 出所：配当金、欧州不動産関連株プレミアム、通貨プレミアムは2019年1月2日時点の取引データを基に、概算値をカレラAM算定
 ※上記はイメージであり、各カバードコール戦略の比率は市場流動性・環境等により上記の数字から大きく異なる場合もあります。
 ※各カバードコール戦略によりオプションプレミアムの確保が期待できる一方、欧州不動産関連株の価格変動や為替レートの変動等により損失を被ることがあります。
 ※インカム性収益は性格の異なる3つの収益の合計です。欧州不動産関連株投資、欧州不動産関連株のコールオプション、通貨コールオプションにはそれぞれ異なるリスクがあります。
 ※配当金・オプションプレミアムの水準はあくまで目安であり、実際の市場環境により変動します。また、インカム性収益は投資先ファンドにおける水準であり、当ファンドの分配率とは異なります。(収益率は、当ファンドの投資先ファンドにおいて保有する欧州不動産関連株とその対価(通貨)に対する比率で、すべて年率です。また、手数料、取引コスト、税金等は考慮していません。)
 ※収益率は、当ファンドの投資先ファンドにおける資料作成時点での収益率で、その後は資産規模に応じて変動します。そのため、当ファンドにより投資先ファンドの追加設定や解約が行われると、収益率が低下(希薄化)したり、上昇したりすることがあります。

当ファンドは、それぞれの投資先ファンド(外国投資信託)が運用の基本方針等で定めている「欧州リート」と「欧州不動産関連株」を併せて、「欧州リート等」と定めています。
 当ファンドにおける投資先ファンドの組入は資金動向や市況動向などを勘案して行いますので、前掲の各ファンドの「戦略と収益のイメージ(例)」は当ファンド全体の「戦略と収益のイメージ」とは異なります。

◆上記のいかなる内容も将来の成果を示唆・保証するものではありません。

(略)

(2)【ファンドの沿革】

<訂正前>

平成26年7月1日 信託契約締結、当初設定、運用開始

平成26年10月17日 ファンドの名称を「トリプルインカム 欧州リートファンド」から「3つの財
布 欧州リートファンド」に変更

平成27年12月25日 当ファンドの主要投資対象とする外国投資信託に「UBS・欧州不動産関連株・
ストラテジーファンド」を追加

<訂正後>

2014年7月1日 信託契約締結、当初設定、運用開始

2014年10月17日 ファンドの名称を「トリプルインカム 欧州リートファンド」から「3つの財布
欧州リートファンド」に変更

2015年12月25日 当ファンドの主要投資対象とする外国投資信託に「UBS・欧州不動産関連株・ス
トラテジーファンド」を追加

(3)【ファンドの仕組み】

<訂正前>

(略)

委託会社の概況

イ．資本金の額(平成30年7月末日現在)

(略)

ロ．委託会社の沿革

平成23年7月 カレラアセットマネジメント株式会社設立

平成24年4月 金融商品取引業登録 関東財務局長(金商)第2636号

ハ．大株主の状況(平成30年7月末日現在)

(略)

<訂正後>

(略)

委託会社の概況

イ．資本金の額(2019年1月末日現在)

(略)

ロ．委託会社の沿革

2011年7月 カレラアセットマネジメント株式会社設立

2012年4月 金融商品取引業登録 関東財務局長(金商)第2636号

ハ．大株主の状況(2019年1月末日現在)

(略)

2【投資方針】

(2)【投資対象】

<訂正前>

(略)

<投資信託証券の選定方針>

投資信託証券の選定方針は、下記概要を参照しております。

<投資先ファンドの概要>

ファンド名	エリクサー・トラスト・欧州リート・ストラテジー・ファンド (英名：Elixir Trust - Triple Income European REIT Strategy Fund)
形態等	ケイマン籍/外国投資信託受益証券/円建
運用の基本方針 主な投資対象	主として欧州の金融商品取引所に上場している不動産投資信託受益証券（以下「欧州リート」といいます。）に投資することにより、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行います。 また、スワップ取引を通じて、実質的に通貨オプション取引（ユーロ対円コールオプションの売却）の損益に連動する投資成果を享受します。 なお、主な非ユーロ建資産については、スワップ取引を通じて、実質的に非ユーロ通貨売りユーロ買いの為替先渡取引の損益に連動する投資成果を享受します。 ※当該投資先ファンドにおける欧州リーートのオプション取引（欧州リーートのコールオプションの売却）は、平成30年2月に管理会社の通知により中止いたしました。
投資態度 (運用方針)	〔欧州リート投資〕 1. 主として欧州の金融商品取引所に上場している不動産投資信託受益証券に投資することにより、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行います。 2. 欧州リーートの投資にあたっては、FTSE EPRA/NAREIT Developed Europe REITインデックスを参照して運用を行います。ただし、当ファンドのパフォーマンスは、スワップ取引などの影響により、当該インデックスに直接連動することを目指したものではありません。また、今後、制度の変更が行われた場合等には、他の銘柄で代替し、または、当該銘柄の組入を行わないこともあります。 〔通貨コールオプションスワップ取引〕 1. スワップ取引を通じて、実質的にユーロ対円を対象としたオプション取引（コールオプションの売却）の損益に連動する投資成果を享受します。 2. 当該スワップ取引の想定元本の額は、取得時において当ファンドの純資産総額のユーロ換算相当額の概ね50%を上限とします。 〔為替スワップ取引〕 1. 主な非ユーロ建資産については、スワップ取引を通じて、実質的に非ユーロ通貨売りユーロ買いの為替先渡取引の損益に連動する投資成果を享受します。 2. 当該スワップ取引の想定元本の額は、取得時において当ファンドが保有する概ね主な非ユーロ建資産相当額を上限とします。 ※当該投資先ファンドにおける欧州リーートのコールオプションスワップ取引は、平成30年2月に管理会社の通知により中止いたしました。 ※資金動向や市場動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。
主な投資制限	1. 不動産投資信託受益証券への投資割合には制限を設けません。 2. 同一銘柄の不動産投資信託受益証券への投資割合は、取得時において当ファンドの純資産総額の35%以下とします。 3. 株式への直接投資は行いません。 4. 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
設定日	平成26年7月1日
信託期間	無期限（信託設定日：平成26年7月1日）
決算日	毎年6月末日
分配方針	原則として、毎月分配を行います。
購入時手数料 換金時手数料 信託財産留保額	ありません。
運用管理費用 (信託報酬等)	純資産総額に対して、年率0.71%程度 ※上記料率には、管理会社、投資顧問会社、管理事務代行会社・保管会社、スワップ取引先への報酬が含まれます。 ただし、管理会社、管理事務代行会社・保管会社への報酬は最低年間報酬額（管理会社は216,000米ドル、管理事務代行会社・保管会社は85,000米ドル）が定められており、純資産総額によっては年率換算で上記信託報酬率を上回る場合があります。また、受託会社への報酬（固定報酬として年額10,000米ドル）が別途かかります。
その他の費用・ 手数料等	信託財産に関する租税、組入有価証券の売買時の売買委託手数料、信託事務の処理に要する費用、信託財産の監査に要する費用、投資信託証券のファンド設立に係る費用、法律関係の費用、外貨建資産の保管などに要する費用、その他の費用・手数料等を信託財産から支払います。なお、これらの費用は、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限等を表示することができません。また、手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
主な関係法人	管理会社：ムーア・マネジメント（バミューダ）リミテッド 投資顧問会社：ドイチェ・アセット＆ウェルス・マネジメント・インターナショナル GmbH 信託会社：インタートラスト・トラスティーズ（ケイマン）リミテッド 管理事務代行会社・保管会社：ブラウン・ブラザーズ・ハリマン・アンド・コー スワップ取引先：ドイツ銀行ロンドン支店

◆上記の内容は、本書作成日現在のものであり、今後変更になる場合があります。

ファンド名	UBS・欧州不動産関連株・ストラテジーファンド (英名：UBS European Real Estate Strategy Fund)
形態等	ケイマン籍/外国投資信託受益証券/円建
運用の基本方針 主な投資対象	主として欧州の金融商品取引所に上場しているユーロ圏の不動産投資信託受益証券(リート)、不動産株式、建設関連株式等(以下「欧州不動産関連株」といいます。)に投資することにより、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行います。 また、スワップ取引を通じて、実質的に欧州不動産関連株のオプション取引(コールオプションの売却)および通貨オプション取引(ユーロ対円コールオプションの売却)の損益に連動する投資成果を享受します。
投資態度 (運用方針)	(欧州不動産関連株投資) 1. 主として欧州の金融商品取引所に上場しているユーロ圏の不動産投資信託受益証券(リート)、不動産株式、建設関連株式等(以下「欧州不動産関連株」といいます。)に投資することにより、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行います。 2. 欧州不動産関連株の投資にあたっては、STOXX 欧州600不動産指数およびSTOXX 欧州600建設・資材指数の採用銘柄を参照して、運用を行います。ただし、当ファンドのパフォーマンスは、当該指数の構成比率の変更やスワップ取引の損益等の影響により、当該指数に直接連動することを目指したものではありません。 (欧州不動産関連株のコールオプションに関するスワップ取引) 1. スワップ取引を通じて、実質的に当ファンドが保有する欧州不動産関連株を対象としたオプション取引(コールオプションの売却)の損益に連動する投資成果を享受します。 2. 当該スワップ取引の想定元本の額は、取得時において当ファンドが保有する欧州不動産関連株評価額の概ね50%を上限とします。 (通貨コールオプションに関するスワップ取引) 1. スワップ取引を通じて、実質的にユーロ対円を対象としたオプション取引(コールオプションの売却)の損益に連動する投資成果を享受します。 2. 当該スワップ取引の想定元本の額は、取得時において当ファンドが保有するユーロ建資産総額の概ね50%を上限とします。 ※資金動向や市場動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。
主な投資制限	1. 不動産投資信託受益証券(リート)および株式への投資割合には、制限を設けません。 2. 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。 3. 同一銘柄の不動産投資信託受益証券(リート)および株式への投資割合は、当ファンドの純資産総額の10%以下とします。
設定日	2015年4月16日
信託期間	無期限(信託設定日：2015年4月16日)
決算日	毎年3月末日
分配方針	原則として、毎月分配を行います。
購入時手数料 換金時手数料 信託財産留保額	ありません。
運用管理費用 (信託報酬等)	純資産総額に対して、年率0.54%程度 ※上記料率には、管理会社・投資顧問会社、管理事務代行会社、保管銀行、スワップ取引相手方への報酬が含まれます。ただし、管理事務代行会社と保管銀行への報酬は最低年間報酬額(管理事務代行会社は65,000米ドル、保管銀行は12,000米ドル)が定められており、純資産総額によっては年率換算で上記信託報酬率を上回る場合があります。また、受託会社への報酬(固定報酬として年額20,000米ドル)が別途かかります。
その他の費用・ 手数料等	信託財産に関する租税、組入の有価証券の売買時の売買委託手数料、信託事務の処理に要する費用、信託財産の監査に要する費用、投資信託証券のファンド設立に係る費用、法律関係の費用、外貨建資産の保管などに要する費用、その他の費用・手数料等を信託財産から支払います。なお、これらの費用は、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限等を表示することができません。また、手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
主な関係法人	管理会社・投資顧問会社：ランタン・ストラクチャード・アセット・マネジメント・リミテッド※ 受託会社・管理事務代行会社：BNYメロン・ファンド・マネジメント(ケイマン)リミテッド 副管理事務代行会社：ザ・バンク・オブ・ニューヨーク・メロン(シンガポール支店) 保管銀行：ザ・バンク・オブ・ニューヨーク・メロン スワップ取引相手方：UBS銀行ロンドン支店 ※UBS・ルクセンブルク・フィナンシャル・グループ・アセット・マネジメント・SAは、2017年5月の合併により社名が変わりました。
ファンド名	カレラ マネープール マザーファンド
商品分類	親投資信託
基本方針	この投資信託は、安定した収益の確保を目指して安定運用を行います。
投資対象	わが国の公社債を主要投資対象とします。
主な投資態度	主としてわが国の公社債に投資し、安定した収益の確保を図るとともに、常時適正な流動性を保持するように配慮します。
主な投資制限	1. 株式への投資は、転換社債の転換請求および新株予約権(新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの(以下、会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。)の新株予約権に限り、行使により取得した株券に限り、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 2. 外貨建資産への投資は行いません。
信託設定日	平成26年7月1日
決算日	年2回：原則として、毎年6月15日、12月15日。ただし、休業日の場合は翌営業日。
収益分配	無分配(期中には分配を行いません。)
信託報酬	信託報酬を収受しません。
信託事務の諸費用	信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、等。
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社

◆上記の内容は、本書作成日現在のものであり、今後変更になる場合があります。

<訂正後>

（略）

<投資信託証券の選定方針>

投資信託証券の選定方針は、下記概要を参照しております。

<投資先ファンドの概要>

ファンド名	エリクサー・トラスト・欧州リート・ストラテジー・ファンド (英名: Elixir Trust - Triple Income European REIT Strategy Fund)
形態等	ケイマン籍/外国投資信託受益証券/円建
運用の基本方針 主な投資対象	主として欧州の金融商品取引所に上場している不動産投資信託受益証券(以下「欧州リート」といいます。)に投資することにより、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行います。 また、スワップ取引を通じて、実質的に通貨オプション取引(ユーロ対円コールオプションの売却)の損益に連動する投資成果を享受します。 なお、主な非ユーロ建資産については、スワップ取引を通じて、実質的に非ユーロ通貨売りユーロ買いの為替先渡取引の損益に連動する投資成果を享受します。 ※当該投資先ファンドにおける欧州リーートのオプション取引(欧州リーートのコールオプションの売却)は、2018年2月に管理会社の通知により中止いたしました。
投資態度 (運用方針)	(欧州リート投資) 1. 主として欧州の金融商品取引所に上場している不動産投資信託受益証券に投資することにより、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行います。 2. 欧州リーートの投資にあたっては、FTSE EPRA/NAREIT Developed Europe REITインデックスを参照して運用を行います。ただし、当ファンドのパフォーマンスは、スワップ取引などの影響により、当該インデックスに直接連動することを目指したものではありません。また、今後、制度の変更が行われた場合等には、他の銘柄で代替し、または、当該銘柄の組入を行わないこともあります。 (通貨コールオプションスワップ取引) 1. スワップ取引を通じて、実質的にユーロ対円を対象としたオプション取引(コールオプションの売却)の損益に連動する投資成果を享受します。 2. 当該スワップ取引の想定元本の額は、取得時において当ファンドの純資産総額のユーロ換算相当額の概ね50%を上限とします。 (為替スワップ取引) 1. 主な非ユーロ建資産については、スワップ取引を通じて、実質的に非ユーロ通貨売りユーロ買いの為替先渡取引の損益に連動する投資成果を享受します。 2. 当該スワップ取引の想定元本の額は、取得時において当ファンドが保有する概ね主な非ユーロ建資産相当額を上限とします。 ※当該投資先ファンドにおける欧州リーートのコールオプションスワップ取引は、2018年2月に管理会社の通知により中止いたしました。 ※資金動向や市場動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。
主な投資制限	1. 不動産投資信託受益証券への投資割合には制限を設けません。 2. 同一銘柄の不動産投資信託受益証券への投資割合は、取得時において当ファンドの純資産総額の35%以下とします。 3. 株式への直接投資は行いません。 4. 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
設定日	2014年7月1日
信託期間	無期限(信託設定日:2014年7月1日)
決算日	毎年6月末日
分配方針	原則として、毎月分配を行います。
購入時手数料 換金時手数料 信託財産留保額	ありません。
運用管理費用 (信託報酬等)	純資産総額に対して、年率0.71%程度 ※上記料率には、管理会社、投資顧問会社、管理事務代行会社・保管会社、スワップ取引先への報酬が含まれます。 ただし、管理会社、管理事務代行会社・保管会社への報酬は最低年間報酬額(管理会社は216,000米ドル、管理事務代行会社・保管会社は85,000米ドル)が定められており、純資産総額によっては年率換算で上記信託報酬率を上回る場合があります。また、受託会社への報酬(固定報酬として年額10,000米ドル)が別途かかります。
その他の費用・ 手数料等	信託財産に関する租税、組入有価証券の売買時の売買委託手数料、信託事務の処理に要する費用、信託財産の監査に要する費用、投資信託証券のファンド設立に係る費用、法律関係の費用、外貨建資産の保管などに要する費用、その他の費用・手数料等を信託財産から支払います。なお、これらの費用は、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限等を表示することができません。また、手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
主な関係法人	管理会社: ムーア・マネジメント(バミュダ)リミテッド 投資顧問会社: ドイツ・アセット&ウェルス・マネジメント・インターナショナル GmbH 受託会社: インタートラスト・トラスティズ(ケイマン)リミテッド 管理事務代行会社・保管会社: ブラウン・ブラザーズ・ハリマン・アンド・コースワップ取引先: ドイツ銀行ロンドン支店

◆上記の内容は、本書作成日現在のものであり、今後変更になる場合があります。

ファンド名	UBS・欧州不動産関連株・ストラテジーファンド (英名：UBS European Real Estate Strategy Fund)
形態等	ケイマン籍/外国投資信託受益証券/円建
運用の基本方針 主な投資対象	主として欧州の金融商品取引所に上場しているユーロ圏の不動産投資信託受益証券（リート）、不動産株式、建設関連株式等（以下「欧州不動産関連株」といいます。）に投資することにより、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり利益の獲得を目指して運用を行います。 また、スワップ取引を通じて、実質的に欧州不動産関連株のオプション取引（コールオプションの売却）および通貨オプション取引（ユーロ対円コールオプションの売却）の損益に連動する投資成果を享受します。
投資態度 (運用方針)	(欧州不動産関連株投資) 1. 主として欧州の金融商品取引所に上場しているユーロ圏の不動産投資信託受益証券（リート）、不動産株式、建設関連株式等（以下「欧州不動産関連株」といいます。）に投資することにより、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり利益の獲得を目指して運用を行います。 2. 欧州不動産関連株の投資にあたっては、STOXX 欧州600不動産指数およびSTOXX 欧州600建設・資材指数の採用銘柄を参照して、運用を行います。ただし、当ファンドのパフォーマンスは、当該指数の構成比率の変更やスワップ取引の損益等の影響により、当該指数に直接連動することを旨としたものではありません。 (欧州不動産関連株のコールオプションに関するスワップ取引) 1. スワップ取引を通じて、実質的に当ファンドが保有する欧州不動産関連株を対象としたオプション取引（コールオプションの売却）の損益に連動する投資成果を享受します。 2. 当該スワップ取引の想定元本の額は、取得時において当ファンドが保有する欧州不動産関連株評価額の概ね50%を上限とします。 (通貨コールオプションに関するスワップ取引) 1. スワップ取引を通じて、実質的にユーロ対円を対象としたオプション取引（コールオプションの売却）の損益に連動する投資成果を享受します。 2. 当該スワップ取引の想定元本の額は、取得時において当ファンドが保有するユーロ建資産総額の概ね50%を上限とします。 ※資金動向や市場動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。
主な投資制限	1. 不動産投資信託受益証券（リート）および株式への投資割合には、制限を設けません。 2. 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。 3. 同一銘柄の不動産投資信託受益証券（リート）および株式への投資割合は、当ファンドの純資産総額の10%以下とします。
設定日	2015年4月16日
信託期間	無期限（信託設定日：2015年4月16日）
決算日	毎年3月末日
分配方針	原則として、毎月分配を行います。
購入時手数料 換金時手数料 信託財産留保額	ありません。
運用管理費用 (信託報酬等)	純資産総額に対して、年率0.54%程度 ※上記料率には、管理会社・投資顧問会社、管理事務代行会社、保管銀行、スワップ取引相手方への報酬が含まれます。ただし、管理事務代行会社と保管銀行への報酬は最低年間報酬額（管理事務代行会社は65,000米ドル、保管銀行は12,000米ドル）が定められており、純資産総額によっては年率換算で上記信託報酬率を上回る場合があります。また、受託会社への報酬（固定報酬として年額20,000米ドル）が別途かかります。
その他の費用・ 手数料等	信託財産に関する租税、組入有価証券の売買時の売買委託手数料、信託事務の処理に要する費用、信託財産の監査に要する費用、投資信託証券のファンド設立に係る費用、法律関係の費用、外貨建資産の保管などに要する費用、その他の費用・手数料等を信託財産から支払います。なお、これらの費用は、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限等を表示することができません。また、手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
主な関係法人	管理会社・投資顧問会社：ランタン・ストラクチャード・アセット・マネジメント・リミテッド* 受託会社・管理事務代行会社：BNYメロン・ファンド・マネジメント（ケイマン）リミテッド 副管理事務代行会社：ザ・バンク・オブ・ニューヨーク・メロン（シンガポール支店） 保管銀行：ザ・バンク・オブ・ニューヨーク・メロン スワップ取引相手方：UBS銀行ロンドン支店 ※UBS・ルクセンブルク・フィナンシャル・グループ・アセット・マネジメント・SAは、2017年5月の合併により社名が変わりました。
ファンド名	カレラ マネーパブル マザーファンド
形態	親投資信託
基本方針	この投資信託は、安定した収益の確保を目指して安定運用を行います。
投資対象	わが国の公社債を主要投資対象とします。
主な投資態度	主としてわが国の公社債に投資し、安定した収益の確保を図るとともに、常時適正な流動性を保持するように配慮します。
主な投資制限	1. 株式への投資は、転換社債の転換請求および新株予約権（新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（以下、会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含み「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）の新株予約権に限り、行使により取得した社債を限り、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 2. 外貨建資産への投資は行いません。
信託設定日	2014年7月1日
決算日	年2回：原則として、毎年6月15日、12月15日。ただし、休業日の場合は翌営業日。
収益分配	無分配（期中には分配を行いません。）
信託報酬	信託報酬を受取しません。
信託事務の諸費用	信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、等。
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社

◆上記の内容は、本書作成日現在のものであり、今後変更になる場合があります。

(3) 【運用体制】

<訂正前>

(略)

内部管理体制

(略)

(注) 運用体制は平成30年7月末日現在のものであり、今後、変更となる場合があります。

<訂正後>

(略)

内部管理体制

(略)

(注) 運用体制は2019年1月末日現在のものであり、今後、変更となる場合があります。

(5) 【投資制限】

<訂正前>

(略)

(参考) カレラ マネープール マザーファンドの投資制限

同一法人等が発行したもしくは取り扱う投資対象資産（国債等を除きます。）への投資（現先取引による投資を除きます。）の合計額は、原則として取得時において信託財産の純資産総額の5%以下とします。

(略)

<訂正後>

(略)

(参考) カレラ マネープール マザーファンドの投資制限

同一法人等が発行したもしくは取り扱う投資対象資産（国債等を除きます。）への投資（現先取引による投資を除きます。）の合計額は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

(略)

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ10%、合計で20%を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託者は、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行います。

(略)

3【投資リスク】

<訂正前>

(1) 基準価額の変動要因

(略)

資金移動に係るリスク

外国投資信託の主要投資対象国である欧州政府当局が資金移動の規制政策等を導入した場合、一部解約、償還等の支払資金の国内への回金が滞ることがあります。

(略)

(3) リスク管理体制

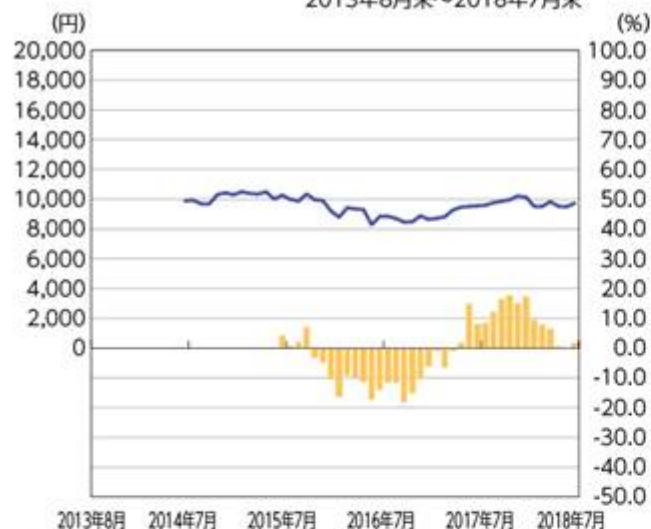
(略)

(注) 投資リスクに対する管理体制は平成30年7月末日現在のものであり、今後、変更となる場合があります。

(参考情報)

ファンドの年間騰落率及び 分配金再投資基準価額の推移

2013年8月末～2018年7月末



2013年8月 2014年7月 2015年7月 2016年7月 2017年7月 2018年7月

■ 当ファンドの年間騰落率(右軸) — 分配金再投資基準価額(左軸)

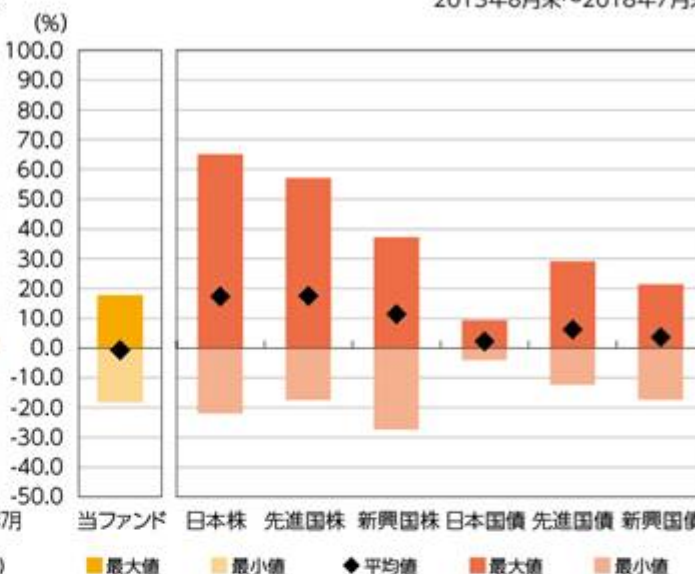
*ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

*分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なる場合があります。

*年間騰落率は、ファンド設定月の月末（2014年7月末）から2018年7月までの各月末における直近1年間の騰落率を表示したものです。

ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較 グラフは、ファンドと代表的な資産のリスクを定量的に比較 できるように作成したものです。

2013年8月末～2018年7月末



当ファンド 日本株 先進国株 新興国株 日本国債 先進国債 新興国債

■ 最大値 ■ 最小値 ◆ 平均値 ■ 最大値 ■ 最小値

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	△ 0.7	17.3	17.5	11.4	2.2	6.2	3.6
最大値	17.7	65.0	57.1	37.2	9.3	29.1	21.4
最小値	△ 18.2	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4

*全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

*2013年8月から2018年7月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものです。なお、当ファンドはファンド設定月の月末（2014年7月末）から2018年7月までの期間で算出しております。

*決算日に対応した数値とは異なります。

*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

各資産クラスの指数

日本株……東証株価指数(TOPIX)

先進国株…MSCI コクサイ・インデックス(除く日本)(円ベース)

新興国株…MSCI エマージング・マーケット・インデックス(円ベース)

日本国債…NOMURA-ボンド・パフォーマンス・インデックス国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス(除く日本)(円ベース)

新興国債…JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド(円ベース)

「東証株価指数(TOPIX)」は、東京証券取引所の知的財産で、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は東京証券取引所が有しています。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

「MSCI コクサイ・インデックス(除く日本)」は、MSCI Inc.が開発した株価指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。

「MSCI エマージング・マーケット・インデックス」とは、MSCI Inc.が開発した世界の新興国株式市場の動きを表す株価指数で、株式時価総額をベースに算出されます。同指数に関する著作権等の知的財産権及びその他の一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。

「NOMURA-ボンド・パフォーマンス・インデックス国債」は、野村證券株式会社が公表する、国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスを基に計算されます。同指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しております。また、野村證券株式会社は、ファンドの運用成果に関して一切の責任を負うものではありません。

「FTSE世界国債インデックス(除く日本)」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。なお、FTSE世界国債インデックスはFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

「JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド」とは、新興国の現地通貨建債券市場の動向を測るためにJPモルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが開発した、時価総額ベースの債券インデックスです。同指数に関する商標・著作権等の知的財産権、指数値の算出、利用その他一切の権利はJPモルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。

<訂正後>

（１）基準価額の変動要因

（略）

資金移動に係るリスク

外国投資信託の主要投資対象国である欧州の当局が資金移動の規制政策等を導入した場合、一部解約、償還等の支払資金の国内への回金が滞ることがあります。

（略）

（３）リスク管理体制

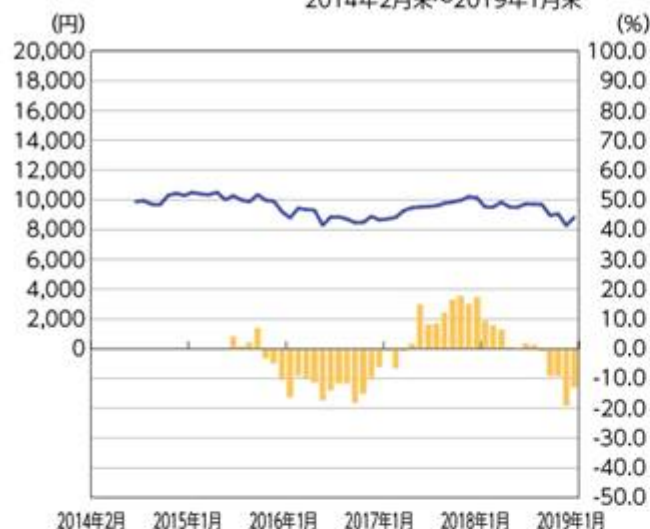
（略）

（注）投資リスクに対する管理体制は2019年1月末日現在のものであり、今後、変更となる場合があります。

(参考情報)

ファンドの年間騰落率及び 分配金再投資基準価額の推移

2014年2月末～2019年1月末



2014年2月 2015年1月 2016年1月 2017年1月 2018年1月 2019年1月

■ 当ファンドの年間騰落率(右軸) — 分配金再投資基準価額(左軸)

*ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

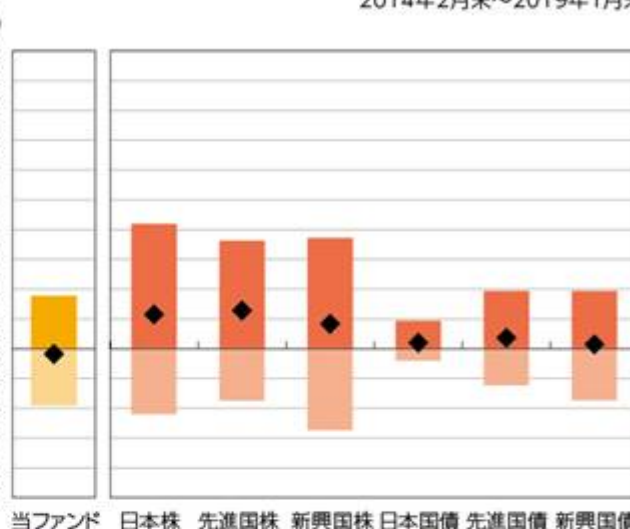
*分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なる場合があります。

*年間騰落率は、2015年7月末から2019年1月末までの各月末における直近1年間の騰落率を表示したものです。

ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

グラフは、ファンドと代表的な資産のリスクを定量的に比較できるように作成したものです。

2014年2月末～2019年1月末



当ファンド 日本株 先進国株 新興国株 日本国債 先進国債 新興国債

■ 最大値 ■ 最小値 ◆ 平均値 ■ 最大値 ■ 最小値

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	△ 1.8	11.5	12.8	8.3	2.0	3.6	1.5
最大値	17.7	41.9	36.2	37.2	9.3	19.3	19.3
最小値	△ 19.0	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4

*全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

*2014年2月から2019年1月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものです。なお、当ファンドについては、2015年7月末から2019年1月末までの期間で算出しております。

*決算日に対応した数値とは異なります。

*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

各資産クラスの指数

日本株……東証株価指数(TOPIX)

先進国株…MSCI コクサイ・インデックス(除く日本)(円ベース)

新興国株…MSCI エマージング・マーケット・インデックス(円ベース)

日本国債…NOMURA-ボンド・パフォーマンス・インデックス国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス(除く日本)(円ベース)

新興国債…JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド(円ベース)

「東証株価指数(TOPIX)」は、東京証券取引所の知的財産で、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は東京証券取引所が有しています。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

「MSCI コクサイ・インデックス(除く日本)」は、MSCI Inc.が開発した株価指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。

「MSCI エマージング・マーケット・インデックス」とは、MSCI Inc.が開発した世界の新興国株式市場の動きを表す株価指数で、株式時価総額をベースに算出されます。同指数に関する著作権等の知的財産権及びその他の一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。

「NOMURA-ボンド・パフォーマンス・インデックス国債」は、野村證券株式会社が公表する、国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスを基に計算されます。同指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しております。また、野村證券株式会社は、ファンドの運用成果に関して一切の責任を負うものではありません。

「FTSE世界国債インデックス(除く日本)」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。なお、FTSE世界国債インデックスはFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

「JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド」とは、新興国の現地通貨建債券市場の動向を測るためにJPモルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが開発した、時価総額ベースの債券インデックスです。同指数に関する商標・著作権等の知的財産権、指数値の算出、利用その他一切の権利はJPモルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。

4【手数料等及び税金】

(3)【信託報酬等】

<訂正前>

(略)

上記の信託報酬額は、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支払うものとします。

(略)

<訂正後>

(略)

上記の信託報酬額は毎日計上され、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支払うものとします。

(略)

(5)【課税上の取扱い】

<訂正前>

(略)

個人、法人別の課税の取扱いについて

(注) 所得税については、平成25年1月1日から平成49年12月31日までの間、別途、所得税の額に対し、2.1%の金額が復興特別所得税として徴収されます。

(略)

<訂正後>

(略)

個人、法人別の課税の取扱いについて

(注) 所得税については、2013年1月1日から2037年12月31日までの間、別途、所得税の額に対し、2.1%の金額が復興特別所得税として徴収されます。

(略)

5【運用状況】

原届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 5 運用状況」を以下の内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

(1)【投資状況】

「3つの財布 欧州リートファンド」

(平成31年1月31日現在)

資産の種類	地域別(国名)	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	ケイマン	7,673,033,393	94.47
親投資信託受益証券	日本	11,027,143	0.13
現金・預金・その他資産 (負債控除後)	-	437,314,677	5.38
合計(純資産総額)		8,121,375,213	100.00

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

組入銘柄は、上位30銘柄もしくは全銘柄を記載しています。

(平成31年1月31日現在)

国/ 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
ケイ マン	投資信託受益証券	UBS・欧州不動産開 連株・ストラテ ジーファンド	1,640,390.642	4,455.34	7,308,508,435	4,441.28	7,285,444,156	89.71
ケイ マン	投資信託受益証券	エリクサー・ トラスト・ 欧州リート・ ストラテジー・ ファンド	142,086.4996	2,703.87	384,183,423	2,727.84	387,589,237	4.77
日本	親投資信託受益証券	カレラ マネーパブル マザーファンド	11,051,457	0.9980	11,029,354	0.9978	11,027,143	0.14

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率をいいます。

(種類別投資比率)

(平成31年1月31日現在)

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	94.48
親投資信託受益証券	0.14
合計	94.62

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の評価金額の比率をいいます。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

<参考>

カレラ マネープール マザーファンド

(1) 投資状況

(平成31年1月31日現在)

資産の種類	国 / 地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	-	51,857,921	100.00
合計(純資産総額)		51,857,921	100.00

(2) 投資資産

投資有価証券の主要銘柄

(評価額上位銘柄明細)

該当事項はありません。

(種類別投資比率)

該当事項はありません。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

平成31年1月31日および同日前1年以内における各月末ならびに下記計算期末の純資産の推移は次の通りです。

計算期間末 または各月末	純資産総額 (円) (分配落)	純資産総額 (円) (分配付)	1口当たり 純資産額(円) (分配落)	1口当たり 純資産額(円) (分配付)
第1特定期間末 (平成26年 12月15日)	17,092,343,820	17,913,640,536	0.9573	1.0033
第2特定期間末 (平成27年 6月15日)	16,454,418,400	16,901,554,787	0.9200	0.9450
第3特定期間末 (平成27年 12月15日)	14,267,584,309	14,619,065,797	0.8119	0.8319
第4特定期間末 (平成28年 6月15日)	12,116,735,924	12,444,350,734	0.7027	0.7217
第5特定期間末 (平成28年 12月15日)	10,938,058,720	11,217,356,790	0.6658	0.6828
第6特定期間末 (平成29年 6月15日)	11,035,090,418	11,355,827,366	0.6881	0.7081
第7特定期間末 (平成29年 12月15日)	10,748,039,431	10,949,201,261	0.6946	0.7076
第8特定期間末 (平成30年 6月15日)	9,844,068,770	10,009,195,141	0.6558	0.6668
第9特定期間末 (平成30年 12月17日)	8,177,118,457	8,321,934,842	0.5647	0.5747
平成30年 1月末日	10,783,937,430	-	0.7036	-
平成30年 2月末日	10,068,991,382	-	0.6608	-
平成30年 3月末日	9,809,225,657	-	0.6478	-
平成30年 4月末日	10,137,059,615	-	0.6708	-
平成30年 5月末日	9,754,235,781	-	0.6487	-
平成30年 6月末日	9,541,963,821	-	0.6361	-
平成30年 7月末日	9,744,097,162	-	0.6525	-
平成30年 8月末日	9,674,452,426	-	0.6502	-
平成30年 9月末日	9,411,994,677	-	0.6371	-
平成30年 10月末日	8,652,367,017	-	0.5890	-
平成30年 11月末日	8,684,604,364	-	0.5954	-
平成30年 12月末日	7,686,251,528	-	0.5344	-
平成31年 1月末日	8,121,375,213	-	0.5703	-

【分配の推移】

計算期間	1口当たりの分配金(円)
第1特定期間末 平成26年7月1日～平成26年12月15日	0.0590
第2特定期間末 平成26年12月16日～平成27年6月15日	0.0500
第3特定期間末 平成27年6月16日～平成27年12月15日	0.0460
第4特定期間末 平成27年12月16日～平成28年6月15日	0.0350
第5特定期間末 平成28年6月16日～平成28年12月15日	0.0390
第6特定期間末 平成28年12月16日～平成29年6月15日	0.0360
第7特定期間末 平成29年6月16日～平成29年12月15日	0.0270
第8特定期間末 平成29年12月16日～平成30年6月15日	0.0230
第9特定期間末 平成30年6月16日～平成30年12月17日	0.0220

【収益率の推移】

計算期間	収益率(%)
第1特定期間末 平成26年7月1日～平成26年12月15日	1.6
第2特定期間末 平成26年12月16日～平成27年6月15日	1.3
第3特定期間末 平成27年6月16日～平成27年12月15日	6.8
第4特定期間末 平成27年12月16日～平成28年6月15日	9.1
第5特定期間末 平成28年6月16日～平成28年12月15日	0.3
第6特定期間末 平成28年12月16日～平成29年6月15日	8.8
第7特定期間末 平成29年6月16日～平成29年12月15日	4.9
第8特定期間末 平成29年12月16日～平成30年6月15日	2.3
第9特定期間末 平成30年6月16日～平成30年12月17日	10.5

(注) 各特定期間の収益率は、特定期間末の基準価額（分配落ち）に当該特定期間の分配金を加算し、当該特定期間の直前の特定期間末の基準価額（分配落ち。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。

(4) 【設定及び解約の実績】

計算期間	設定口数(口)	解約口数(口)	発行済口数(口)
第1特定期間末 (平成26年7月1日～ 平成26年12月15日)	17,913,303,564	59,027,123	17,854,276,441
第2特定期間末 (平成26年12月16日～ 平成27年6月15日)	165,590,177	134,411,110	17,885,455,508
第3特定期間末 (平成27年6月16日～ 平成27年12月15日)	23,166,926	334,548,016	17,574,074,418
第4特定期間末 (平成27年12月16日～ 平成28年6月15日)	22,763,750	353,953,417	17,242,884,751
第5特定期間末 (平成28年6月16日～ 平成28年12月15日)	20,214,299	833,800,757	16,429,298,293
第6特定期間末 (平成28年12月16日～ 平成29年6月15日)	20,098,652	412,549,540	16,036,847,405
第7特定期間末 (平成29年6月16日～ 平成29年12月15日)	14,635,474	577,495,919	15,473,986,960
第8特定期間末 (平成29年12月16日～ 平成30年6月15日)	7,215,140	469,713,784	15,011,488,316
第9特定期間末 (平成30年6月16日～ 平成30年12月17日)	16,036,145	545,885,941	14,481,638,520

(注)第1特定期間の設定口数には、当初設定口数を含みます。

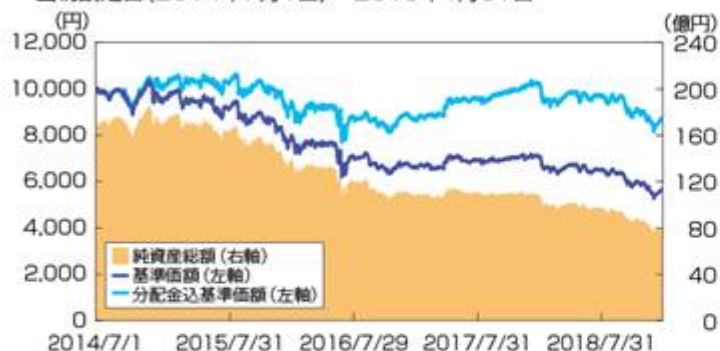
(参考情報)

(2019年1月31日現在)

基準価額・純資産の推移、分配の推移

● 基準価額・純資産総額の推移

当初設定日(2014年7月1日)～2019年1月31日



*分配金込基準価額の推移は、分配金(税引前)を再投資したものと表示しています。

● 基準価額と純資産総額

基準価額(1万口当たり)	5,703円
純資産総額	8,121百万円

● 分配の推移(1万口当たり、税引前)

2018年12月	100円
2018年9月	120円
2018年6月	110円
2018年3月	120円
2017年12月	130円
設定来累計	3,370円

主要な資産の状況

● 資産配分

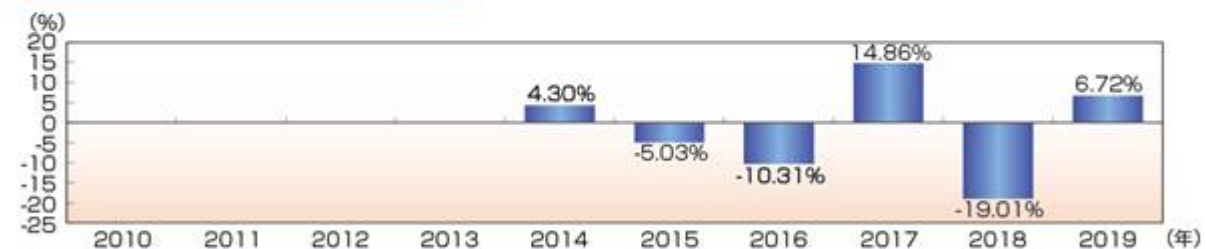
資産の種類	組入比率
UBS・欧州不動産関連株・ストラテジーファンド	89.70%
エリクサー・トラスト・欧州リート・ストラテジー・ファンド	4.77%
カレラ マネーフル マザーファンド	0.13%
現金・その他	5.38%
合計	100.00%

● 実質的な組入上位10銘柄

	銘柄名	種別	国・地域	組入比率
1	ユニバール・ロダム・コウエストフィールド	リート	フランス	9.10%
2	バンシ	建設関連株式	フランス	8.40%
3	ヴォノヴィア	不動産株式	ドイツ	8.20%
4	CRH	建設関連株式	アイルランド	6.24%
5	ドイチェ・ウーオーネン	不動産株式	ドイツ	5.68%
6	サンゴバン	建設関連株式	フランス	5.10%
7	フェロビアル	建設関連株式	スペイン	4.31%
8	ジェシナ	リート	フランス	3.98%
9	クレピエール	リート	フランス	3.79%
10	ハイデルベルグセメント	建設関連株式	ドイツ	3.65%

*実質的な組入上位10銘柄は、2019年1月30日(現地時間)のもので、当ファンドでは2019年1月31日の基準価額に反映されます。

*実質的な組入上位10銘柄は、当ファンドがそれぞれの投資先ファンド(外国投資信託)を通じて、実質的に投資し組入れている同一銘柄を合算して表示しています。

年間収益率の推移(暦年ベース)

*年間収益率は基準価額(税引前分配金再投資ベース)をもとに算出した騰落率です。

*2014年は設定日(2014年7月1日)から年末までの収益率、2019年は1月1日から1月31日までの収益率を表示しています。

*当ファンドにベンチマークはありません。

*上記の運用実績は過去のものであり、将来の運用成果等を予想あるいは保証するものではありません。

*最新の運用状況については別途開示しており、表紙に記載の委託会社ホームページにおいて閲覧することができます。

第2【管理及び運営】**3【資産管理等の概要】****(3)【信託期間】****<訂正前>**

信託契約締結日から平成36年6月17日までとします。

(略)

<訂正後>

信託契約締結日から2024年6月17日までとします。

(略)

(4)【計算期間】**<訂正前>**

(略)

上記の規定にかかわらず、各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日の場合には、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、平成36年6月17日とします。

<訂正後>

(略)

上記の規定にかかわらず、各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日の場合には、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、2024年6月17日とします。

第3【ファンドの経理状況】

原届出書の「第二部 ファンド情報 第3 ファンドの経理状況」を以下の内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドの計算期間は6か月未満であるため、財務諸表は6か月毎に作成しております。ただし、当ファンドの第9特定期間は、平成30年6月16日から平成30年12月17日までといたします。
3. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第9特定期間（平成30年6月16日から平成30年12月17日まで）の財務諸表について、UHY東京監査法人による監査を受けております。

1【財務諸表】
【3つの財布 欧州リートファンド】
(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	前特定期間 (平成30年6月15日現在)	当特定期間 (平成30年12月17日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	403,793,219	1,034,347,968
投資信託受益証券	9,457,525,606	7,347,435,821
親投資信託受益証券	11,034,879	11,029,354
未収配当金	175,952,776	-
流動資産合計	10,048,306,480	8,392,813,143
資産合計	10,048,306,480	8,392,813,143
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	165,126,371	144,816,385
未払解約金	3,609,974	40,181,286
未払受託者報酬	814,223	703,104
未払委託者報酬	33,925,838	29,296,049
その他未払費用	761,304	697,862
流動負債合計	204,237,710	215,694,686
負債合計	204,237,710	215,694,686
純資産の部		
元本等		
元本	15,011,488,316	14,481,638,520
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	5,167,419,546	6,304,520,063
(分配準備積立金)	5,251,408,508	5,517,360,057
元本等合計	9,844,068,770	8,177,118,457
純資産合計	9,844,068,770	8,177,118,457
負債純資産合計	10,048,306,480	8,392,813,143

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	前特定期間		当特定期間	
	自	平成29年12月16日 至 平成30年6月15日	自	平成30年6月16日 至 平成30年12月17日
営業収益				
受取配当金		1,013,231,859		857,853,845
有価証券売買等損益		1,184,522,907		1,810,095,310
営業収益合計		171,291,048		952,241,465
営業費用				
受託者報酬		1,656,390		1,514,618
委託者報酬		69,016,058		63,109,041
その他費用		3,036,376		3,071,027
営業費用合計		73,708,824		67,694,686
営業利益又は営業損失()		244,999,872		1,019,936,151
経常利益又は経常損失()		244,999,872		1,019,936,151
当期純利益又は当期純損失()		244,999,872		1,019,936,151
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は 一部解約に伴う当期純損失金額の分配額 ()		426,893		14,761,421
期首剰余金又は期首欠損金()		4,725,947,529		5,167,419,546
剰余金増加額又は欠損金減少額		153,138,559		196,921,587
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は 欠損金減少額		153,138,559		196,921,587
剰余金減少額又は欠損金増加額		2,421,417		6,343,817
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は 欠損金増加額		2,421,417		6,343,817
分配金		347,616,180		322,503,557
期末剰余金又は期末欠損金()		5,167,419,546		6,304,520,063

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 運用資産の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券 移動平均法に基づき当該投資信託受益証券の基準価額で評価しております。 親投資信託受益証券 移動平均法に基づき当該親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として、株式の配当落ち日において、その金額が確定している場合には当該金額、未だ確定していない場合は予想配当金額の90%を計上し、残額については入金時に計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	当ファンドの計算期間は原則として、毎年12月16日から3月15日まで、3月16日から6月15日まで、6月16日から9月15日まで及び、9月16日から12月15日までとなっております。ただし、各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日以降の営業日である日のうち、該当日に最も近い日とし、その翌日より次の計算期間が始まるものいたしますので、当特定期間は平成30年6月16日から平成30年12月17日までとなっております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	前特定期間 (平成30年6月15日現在)	当特定期間 (平成30年12月17日現在)
1. 期首元本額	15,473,986,960円	15,011,488,316円
期中追加設定元本額	7,215,140円	16,036,145円
期中一部解約元本額	469,713,784円	545,885,941円
2. 元本の欠損 純資産額が元本総額を下回る場合 におけるその差額	5,167,419,546円	6,304,520,063円
3. 当該計算期間末日における受益権 の総数	15,011,488,316口	14,481,638,520口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

前特定期間 自 平成29年12月16日 至 平成30年 6月15日		当特定期間 自 平成30年 6月16日 至 平成30年12月17日	
分配金の計算過程		分配金の計算過程	
第15期		第17期	
平成29年12月16日		平成30年 6月16日	
平成30年 3月15日		平成30年 9月18日	
A 費用控除後の配当等収益額	420,788,542円	A 費用控除後の配当等収益額	408,647,048円
B 費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券等損益額	- 円	B 費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券等損益額	- 円
C 収益調整金額	28,348,816円	C 収益調整金額	30,597,615円
D 分配準備積立金額	4,727,657,602円	D 分配準備積立金額	5,178,025,115円
E 当ファンドの分配対象収益額	5,176,794,960円	E 当ファンドの分配対象収益額	5,617,269,778円
F 当ファンドの期末残存口数	15,207,484,166口	F 当ファンドの期末残存口数	14,807,264,353口
G 10,000口当たり収益分配対象額	3,404円	G 10,000口当たり収益分配対象額	3,793円
H 10,000口当たり分配金額	120円	H 10,000口当たり分配金額	120円
I 収益分配金金額	182,489,809円	I 収益分配金金額	177,687,172円
第16期		第18期	
平成30年 3月16日		平成30年 9月19日	
平成30年 6月15日		平成30年12月17日	
A 費用控除後の配当等収益額	514,804,070円	A 費用控除後の配当等収益額	374,964,751円
B 費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券等損益額	- 円	B 費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券等損益額	- 円
C 収益調整金額	28,607,181円	C 収益調整金額	33,445,644円
D 分配準備積立金額	4,901,730,809円	D 分配準備積立金額	5,287,211,691円
E 当ファンドの分配対象収益額	5,445,142,060円	E 当ファンドの分配対象収益額	5,695,622,086円
F 当ファンドの期末残存口数	15,011,488,316口	F 当ファンドの期末残存口数	14,481,638,520口
G 10,000口当たり収益分配対象額	3,627円	G 10,000口当たり収益分配対象額	3,932円
H 10,000口当たり分配金額	110円	H 10,000口当たり分配金額	100円
I 収益分配金金額	165,126,371円	I 収益分配金金額	144,816,385円

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項目	前特定期間 自 平成29年12月16日 至 平成30年 6月15日	当特定期間 自 平成30年 6月16日 至 平成30年12月17日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託として、有価証券、デリバティブ取引等の金融商品の運用を投資信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが運用する主な有価証券は、「重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「運用資産の評価基準及び評価方法」に記載の有価証券等であり、全て売買目的で保有しております。また、主なデリバティブ取引には、先物取引、オプション取引、スワップ取引等があり、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するために行うことができます。当該有価証券及びデリバティブ取引には、性質に応じて市場リスク、価格変動リスクや為替変動リスク等があります。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	コンプライアンス部では、運用状況のモニタリング、運用に関する法令諸規則の遵守状況の確認を行っております。 また、管理部では、運用に関するリスク管理を行っております。	同左

金融商品の時価等に関する事項

項目	前特定期間 (平成30年6月15日現在)	当特定期間 (平成30年12月17日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	有価証券 「注記表(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」の「運用資産の評価基準及び評価方法」に記載しております。 デリバティブ取引 該当事項はありません。 上記以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。	有価証券 同左 デリバティブ取引 同左 上記以外の金融商品 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価格のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

（有価証券に関する注記）

前特定期間(自 平成29年12月16日 至 平成30年6月15日)

売買目的有価証券

（単位：円）

種類	最終計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	265,131,341
親投資信託受益証券	3,316
合計	265,134,657

当特定期間(自 平成30年6月16日 至 平成30年12月17日)

売買目的有価証券

（単位：円）

種類	最終計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	1,198,718,807
親投資信託受益証券	2,210
合計	1,198,721,017

（デリバティブ取引等に関する注記）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

前特定期間 (平成30年6月15日現在)		当特定期間 (平成30年12月17日現在)	
1口当たり純資産額	0.6558円	1口当たり純資産額	0.5647円
(1万口当たり純資産額)	(6,558円)	(1万口当たり純資産額)	(5,647円)

(4)【附属明細表】

有価証券明細表

(ア)株式

該当事項はありません。

(イ)株式以外の有価証券（平成30年12月17日現在）

（単位：円）

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
投資信託受益証券	日本円	エリクサー・トラスト・欧州 リート・ストラテジー・ファン ド	162,333.021	438,927,386	
		U B S・欧州不動産関連株・ス トラテジーファンド	1,548,176.173	6,908,508,435	
	合計	銘柄数：2 組入時価比率：89.9%	1,710,509.194	7,347,435,821	99.9%
		合計		7,347,435,821	
親投資信託受益証券	日本円	カレラ マネープール マザー ファンド	11,051,457	11,029,354	
	合計	銘柄数：1 組入時価比率：0.1%	11,051,457	11,029,354	0.1%
		合計		11,029,354	
合計				7,358,465,175	

(注1)券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

(注2)比率は左より組入時価の純資産に対する比率、および各小計欄の合計金額に対する比率であります。

信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額及び時価の状況表

該当事項はありません。

（参考情報）

当ファンドは、「エリクサー・トラスト・欧州リート・ストラテジー・ファンド」、「UBS・欧州不動産関連株・ストラテジーファンド」および「カレラ マネープール マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「投資信託受益証券」は該当ファンドの受益証券であり、「親投資信託受益証券」は該当マザーファンドの受益証券です。

なお、以下に記載した状況は監査の対象外です。

「エリクサー・トラスト・欧州リート・ストラテジー・ファンド」の状況

エリクサー・トラスト・欧州リート・ストラテジー・ファンドは、ケイマン籍の外国投資信託で、現地での監査を受けております。

なお、以下の財務諸表等は、入手しうる直近の現地監査済み財務諸表を委託会社において抜粋して翻訳したものです。

（１）資産及び負債明細書（2018年6月30日現在）

（単位：円）

資産

公正価値で測定される投資有価証券（原価 1,356,498,398円）	1,414,179,171
現金及び現金同等物	35,056,137
スワップ契約の未実現収益	1,296,654
未収金：	
売却投資有価証券	36,987
配当金	4,013,195
決済済み為替先渡契約	6,720,046
資産合計	1,461,302,190

負債

スワップ契約の未実現損失	1,418,698
未払分配金	15,915,073
未払金：	
外国税	170,104,251
専門家費用	12,048,600
事務管理報酬	6,002,102
保管報酬	4,030,454
管理報酬	1,873,182
投資運用報酬	646,081
登記手数料	27,820
受託報酬	7,390
名義書換代理人報酬	1,729
負債合計	212,075,380

純資産

1,249,226,810

受益証券口数残高

339,894

受益証券1口当たり純資産価格

3,675.34

(2) 投資有価証券明細表(2018年6月30日現在)

株数	有価証券の明細(純資産総額に占める割合)	公正価値
	普通株式(113.2%)	(単位:円)
	ベルギー(6.6%)	
	リート(6.6%)	
1,618	Aedifica S.A.	16,342,089
1,732	Befimmo S.A.	11,826,598
1,801	Cofinimmo S.A.	24,595,500
1,485	Intervest Offices & Warehouses NV	4,157,788
602	Retail Estates NV	5,940,172
1,347	Warehouses De Pauw CVA	18,883,170
	ベルギー合計(原価72,427,521円)	81,745,317
	フランス(40.0%)	
	リート(40.0%)	
2,028	Carmila S.A.	6,255,101
2,966	Covivio	34,176,444
4,293	Gecina S.A.	79,558,227
2,588	ICADE	26,875,579
16,776	Klepierre S.A.	69,967,467
3,668	Mercialys S.A.	7,072,696
11,332	Unibail-Rodamco-Westfield	276,319,236
	フランス合計(原価510,680,875円)	500,224,750
	ドイツ(2.4%)	
	リート(2.4%)	
12,949	Alstria Office REIT AG	21,552,259
7,130	Hamborner REIT AG	8,400,128
	ドイツ合計(原価26,311,665円)	29,952,387
	アイルランド(2.4%)	
	リート(2.4%)	
62,709	Green REIT PLC	12,002,442
63,068	Hibernia REIT PLC	12,038,530
32,559	Irish Residential Properties REIT PLC	5,810,696
	アイルランド合計(原価27,656,291円)	29,851,668
	イタリア(1.1%)	
	リート(1.1%)	
95,187	Beni Stabili SIIQ SpA	9,238,604
4,510	Immobiliare Grande Distribuzione SIIQ SpA	4,013,925
	イタリア合計(原価11,857,852円)	13,252,529
	オランダ(4.2%)	
	リート(4.2%)	
4,299	Eurocommercial Properties NV	20,214,795
1,545	NSI NV	7,173,002
1,667	Vastned Retail NV	8,709,535
3,639	Wereldhave NV	15,840,693
	オランダ合計(原価57,590,794円)	51,938,025
	スペイン(8.2%)	
	不動産投資及びサービス(3.5%)	
27,882	Merlin Properties Socimi S.A.	44,910,271
	リート(4.7%)	
7,161	Hispania Activos Inmobiliarios Socimi S.A.	16,882,562
25,172	Inmobiliaria Colonial Socimi S.A.	30,811,750
8,430	Lar Espana Real Estate Socimi S.A.	10,422,298
		58,116,610
	スペイン合計(原価78,089,452円)	103,026,881

株数	有価証券の明細（純資産総額に占める割合）	公正価値
		（単位：円）
	普通株式(113.2%)(続き)	
	英国(48.3%)	
	クローズドエンド型ファンド(0.7%)	
48,554	Schroder Real Estate Investment Trust, Ltd.	4,380,956
37,103	Standard Life Investment Property Income Trust, Ltd.	5,051,465
		<u>9,432,421</u>
	リート(46.4%)	
193,532	Assura PLC	16,301,740
11,270	Big Yellow Group PLC	15,714,599
82,359	British Land Co. PLC	80,959,584
47,652	Capital & Regional PLC	3,546,971
32,954	Custodian REIT PLC	5,840,761
8,285	Derwent London PLC	37,631,598
48,766	Empiric Student Property PLC	6,318,436
35,271	GCP Student Living PLC	7,582,175
24,798	Great Portland Estates PLC	25,906,980
65,528	Hammerson PLC	50,078,927
37,016	Hansteen Holdings PLC	5,640,478
78,161	Intu Properties PLC	20,596,982
59,673	Land Securities Group PLC	83,503,201
58,070	Londonmetric Property PLC	15,710,219
27,268	NewRiver REIT PLC	10,766,530
51,501	Primary Health Properties PLC	8,781,586
115,515	RDI REIT PLC	5,903,971
28,043	Regional REIT, Ltd. (a)	3,895,891
82,875	Segro PLC	81,127,472
18,902	Shaftesbury PLC	25,858,912
18,074	Target Healthcare REIT, Ltd.	2,920,621
112,246	Tritax Big Box REIT PLC	25,590,317
19,260	UNITE Group PLC	24,250,357
9,519	Workspace Group PLC	15,033,973
		<u>579,462,281</u>
	保管/倉庫(1.2%)	
18,764	Safestore Holdings PLC	15,078,280
	英国合計(原価571,642,221円)	<u>603,972,982</u>
	普通株式合計(原価1,356,256,671円)	<u>1,413,964,539</u>
	新株予約権(0.0%)	
	ベルギー(0.0%)	
1,801	Cofinimmo S.A.	143,637
771	Xior Student Housing NV	70,995
	ベルギー合計(原価241,727円)	<u>214,632</u>
	新株予約権合計(原価241,727円)	<u>214,632</u>
	投資有価証券合計(原価1,356,498,398円)	<u>1,414,179,171</u>

(a) - 1933年証券法のルール144Aの下で登録が免除されている証券。これらの証券は、登録が免除された取引において、適格機関投資家の買い手に転売される場合があります。特に明示がない限り、これらの証券は流動性が低いとはみなされていません。

為替トータル・リターン・スワップ契約残高 2018年6月30日現在 (純資産の0.1%)

想定元本	参照取引対象	取引相手	通貨	満期日	前払プレミアム 支払/(受取)	未実現 利益/(損失)	公正価値
4,734,137	ユーロ/ 英ポンド 為替レート	Deutsche Bank AG London	ユーロ	2019年 7月31日	- 円	1,296,654 円	1,296,654 円

リターン・スワップ契約残高の総比率 2018年6月30日現在 (純資産の(0.1%))

想定元本	参照取引対象	取引相手	通貨	満期日	前払プレミアム 支払/(受取)	未実現 利益/(損失)	公正価値
為替オプション オーバーレイ:							
4,909,548	ユーロ/日本円 為替レート	Deutsche Bank AG London	ユーロ	2049年 12月31日	- 円	(1,418,698)円	(1,418,698)円

用語:

EUR	ユーロ
FX	為替
GBP	英ポンド
JPY	日本円

(3) 損益計算書（2018年6月30日現在）

(単位：円)

投資収益

配当収入(源泉税22,560,669円控除後)

100,816,227

投資収益合計

100,816,227

費用

管理報酬

23,768,293

専門家報酬

13,162,184

外国税金費用

8,231,530

保管報酬

7,829,449

投資運用報酬

6,829,879

事務管理報酬

6,602,168

受託報酬

1,082,155

登記手数料

1,049,804

名義書換代理人報酬

389,386

その他の報酬

310,791

費用合計

69,255,639

純投資収益

31,560,588

(単位：円)

実現及び未実現収益/(損失):**実現収益/(損失):**

投資有価証券

(344,728,247)

スワップ契約

(36,617,425)

為替取引及び為替先渡契約

472,835

純実現損失

(380,872,837)

未実現収益/(未実現損失)の純変動額:

投資有価証券

434,147,922

スワップ契約

44,214,587

為替取引

(1,524,661)

未実現収益の純変動額

476,837,848

純実現及び未実現収益

95,965,011

運用による純資産の純増加額

127,525,599

(4) 純資産変動計算書（2018年6月30日現在）

(単位：円)

運用による純資産の純増加/(減少)額:	
純投資収益	31,560,588
純実現損失	(380,872,837)
未実現収益の純変動額	476,837,848
運用による純資産の純増加額	127,525,599
受益者への分配金	(342,319,216)
買戻しによる純資産の減少額	(2,500,000,000)
純資産の純減少額	(2,714,793,617)
純資産	
期首	3,964,020,427
期末	1,249,226,810

(5) 財務ハイライト情報（2018年6月30日現在）

受益証券1口当たり
純資産価格(円)

純資産価格(期首)	4,405.51
純投資収益 ¹	60.26
投資活動による純実現及び未実現損失	(115.44)
運用による損失合計額	(55.18)
受益者への分配金 ²	(674.99)
純資産価格(期末)	3,675.34
トータルリターン^{3^}	(2.12)%
平均純資産に対する割合:[^]	
費用合計額	3.04%
純投資収益	1.39%

¹ 当期中の平均受益証券口数残高に基づいて計算されています。² 分配金は、実際の1株当たり金額を使用して計算されており、平均発行済み株式ベースに基づくものではありません。³ トータルリターンは、当期中に分配金が再投資されることを前提に計算されています。[^] 受益者のリターン及び割合は、資本取引のタイミングにより、ここに表示されているリターン及び割合と異なる場合があります。

「UBS・欧州不動産関連株・ストラテジーファンド」の状況

UBS・欧州不動産関連株・ストラテジーファンドは、ケイマン籍の外国投資信託で、現地での監査を受けております。

なお、以下の財務諸表等は、入手しうる直近の現地監査済み財務諸表を委託会社において抜粋して翻訳したものです。

(1) 財政状態計算書（2018年3月31日現在）

	2018年3月31日 日本円	2017年3月31日 日本円
資産		
流動資産		
損益を通じて公正価値で測定される金融資産	16,261,007,043	13,170,299,225
現金及び現金同等物	610,714,796	386,875,854
受益者に対する債権	-	100,000,000
未収配当	18,037,920	12,432,738
資産合計	16,889,759,759	13,669,607,817
資本		
シリーズトラストの株主に帰属する資本金および準備金		
資本金	16,822,607,268	13,619,037,912
利益剰余金	-	-
資本合計	16,822,607,268	13,619,037,912
負債		
流動負債		
損益を通じて公正価値で測定される金融負債	50,666,668	40,846,965
当座借越	5,549,717	-
未払費用	10,936,106	9,722,940
負債合計	67,152,491	50,569,905
資本及び負債合計	16,889,759,759	13,669,607,817

(2) 包括利益計算書（2017年3月31日から2018年3月31日までの会計期間）

	2018年3月31日 終了会計年度 合計 日本円	2017年3月31日 終了会計年度 合計 日本円
収益		
受取配当	481,137,960	340,089,387
純外国為替差益	(3,449,245)	(18,383,204)
損益を通じて公正価値で測定される金融資産 及び金融負債に係る公正価値の その他の純変動額	1,323,913,847	469,523,871
純投資利益	<u>1,801,602,562</u>	<u>791,230,054</u>
費用		
支払利息	218,774	49,534
受託報酬及び事務管理報酬	2,229,702	2,148,641
副事務管理報酬	10,751,117	9,772,027
保管報酬	4,983,753	4,269,983
投資運用報酬	32,861,869	21,643,959
管理報酬	25,467,943	16,774,052
取引手数料	14,138,557	25,730,943
スワップ関連手数料	19,717,110	12,986,364
担保代理人手数料	462,812	42,873
その他の営業費用	7,657,687	4,201,040
営業費用合計	<u>118,489,324</u>	<u>97,619,416</u>
税引前利益	1,683,113,238	693,610,638
源泉徴収税	(115,714,911)	(84,665,981)
税引後利益	<u>1,567,398,327</u>	<u>608,944,657</u>
包括利益合計	<u>1,567,398,327</u>	<u>608,944,657</u>

(3) 持分変動計算書（2017年3月31日から2018年3月31日までの会計期間）

	資本金 日本円	利益剰余金 日本円	資本合計 日本円
2016年3月31日現在	10,877,616,544	-	10,877,616,544
当期包括利益合計	-	608,944,657	608,944,657
受益者への分配金	(2,358,578,632)	(608,944,657)	(2,967,523,289)
受益証券発行に係る受取金	5,100,000,000	-	5,100,000,000
2017年3月31日現在	13,619,037,912	-	13,619,037,912
当期包括利益合計	-	1,567,398,327	1,567,398,327
受益者への分配金	(1,796,430,644)	(1,567,398,327)	(3,363,828,971)
受益証券発行に係る受取金	5,000,000,000	-	5,000,000,000
2018年3月31日現在	16,822,607,268	-	16,822,607,268

(4) 投資有価証券明細表（2018年3月31日現在）

シリーズトラストは、主に上場株式に投資している。シリーズトラストはスワップに投資しているが、シリーズトラストがコールオプション（株式及び外国為替）を売却している場合、スワップはオーバーレイ戦略の実施に用いられている。売却されたオプションは1週間または1ヶ月の満期で、アット・ザ・マネーにて完全にカバーされ、売却（または、クローズ）される。この戦略では、シリーズトラストは売却したオプションのオプション・プレミアムを受け取るため、市場が下落した場合、シリーズトラストの損失が抑えられる。ただし、オプションがイン・ザ・マネーで決済された場合、シリーズトラストのアップサイドの可能性が抑えられる。売却されるオプションは完全にカバーされているため、オーバーレイ戦略から生じているネット・エクスポージャーはゼロになる（株式コールオプションのショート・ポジションのコミットメントと、それに対応するシリーズトラストにより保有されている株式のネットイング）。

以下の表は、2018年3月31日時点におけるシリーズトラストにより保有されている投資有価証券の集中の状況を示している。

2018年3月31日	市場価格で評価された純	
	公正価値 日本円	資産に対する割合 (%)
資産		
上場株式	16,213,172,840	96.38
株式売建コールオプション・スワップへの投資	35,534,625	0.21
外国為替コールオプション・スワップへの投資	47,834,203	0.28
負債		
株式売建コールオプション・スワップへの投資	(86,201,293)	(0.51)
2017年3月31日	市場価格で評価された純	
	公正価値 日本円	資産に対する割合 (%)
資産		
上場株式	13,105,206,660	96.23
株式売建コールオプション・スワップへの投資	6,164,720	0.05

外国為替コールオプション・スワップへの投資	65,092,565	0.48
-----------------------	------------	------

負債

株式売建コールオプション・スワップへの投資	(47,011,685)	(0.35)
-----------------------	--------------	--------

市場価格が5%（2017年：5%）上昇した場合、買戻し可能受益証券の保有者に帰属するシリーズトラストの純資産は584,852,923円（2017年：439,497,059円）増加する。一方、市場価格が5%（2017年：5%）下落した場合、買戻し可能受益証券の保有者に帰属するシリーズトラストの純資産は668,726,386円（2017年：504,642,749円）減少する。

管理会社は、売建コールオプション・スワップと上場株式への投資に係わる集中リスクを日々監視している。シリーズトラストの売建コールオプション・スワップと上場株式は、以下の業種に集中している。

2018年3月31日

投資合計額に占める

上場株式の投資	割合（%）
不動産	50.65
エンジニアリング及び建設	27.64
建設資材	21.73
売建コールオプション・スワップへの投資	
その他	(0.02)
	<u>100.00</u>

2017年3月31日

投資合計額に占める

上場株式の投資	割合（%）
不動産	49.53
エンジニアリング及び建設	26.95
建設資材	23.34
売建コールオプション・スワップへの投資	
その他	0.18
	<u>100.00</u>

財政状態計算書日現在、保管銀行および売建コールオプション・スワップのカウンターパーティへのエクスポージャーは、保有投資有価証券のそれぞれ100.02%（2017年：99.82%）および-0.02%（2017年：0.18%）であった。

以下の表は、売建コールオプション・スワップにおける業種の集中を示している。

2018年3月31日	想定元本 日本円	公正価値 日本円
株式コールオプション・スワップ*		
不動産	4,007,014,528	(64,170,843)
エンジニアリング及び建設	2,191,897,260	(22,030,450)
建設資材	1,795,964,831	35,534,625
外国為替コールオプション・スワップ	7,979,373,267	47,834,203
	<u>15,974,249,886</u>	<u>(2,832,465)</u>

2017年3月31日	想定元本	公正価値
------------	------	------

	日本円	日本円
株式コールオプション・スワップ*		
不動産	3,222,111,289	1,499,861
エンジニアリング及び建設	1,713,928,338	(47,011,685)
建設資材	1,503,812,285	4,664,859
外国為替コールオプション・スワップ	6,444,188,902	65,092,565
	12,884,040,814	24,245,600

* 対象となる株式エクスポージャーに基づき、業種ごとに分類された単一株式オプションを表している。

2018年3月31日現在、買戻し可能受益証券の保有者に帰属する純資産の5%を超えていた株式の発行体に対するエクスポージャーは、以下の通りである。

	2018年3月31日 純資産に占める 割合（％）
投資有価証券	
Vinci SA	9.23
Vonovia SE	8.82
Unibail-Rodamco SE	8.37
Compagnie De Saint Gobain	6.97
CRH Plc	6.80
Deutsche Wohnen SE NPV	6.07

	2017年3月31日 純資産に占める 割合（％）
投資有価証券	
Vinci SA	9.34
Unibail-Rodamco SE	9.10
CRH Plc	7.81
Vonovia SE	7.76
Compagnie De Saint Gobain	7.58
Klepierre	5.77
Deutsche Wohnen AG NPV	5.51

「カレラ マネープール マザーファンド」の状況

(1) 貸借対照表

(単位：円)

	(平成30年6月15日現在)	(平成30年12月17日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	51,895,406	51,867,407
流動資産合計	51,895,406	51,867,407
資産合計	51,895,406	51,867,407
負債の部		
流動負債		
その他未払費用	2,295	2,601
流動負債合計	2,295	2,601
負債合計	2,295	2,601
純資産の部		
元本等		
元本	51,970,693	51,970,693
剰余金		
剰余金又は欠損金()	77,582	105,887
元本等合計	51,893,111	51,864,806
純資産合計	51,893,111	51,864,806
負債純資産合計	51,895,406	51,867,407

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 運用資産の評価基準及び評価方法	公社債 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	受取利息 約定日基準で計上しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	(平成30年6月15日現在)	(平成30年12月17日現在)
1. 期首元本額	51,970,693円	51,970,693円
期中追加設定元本額	- 円	- 円
期中一部解約元本額	- 円	- 円
2. 元本の欠損 純資産額が元本総額を下回る場合 におけるその差額	77,582円	105,887円
3. 当該計算期間末日における受益権 の総数	51,970,693口	51,970,693口

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項目	自 平成29年12月16日 至 平成30年 6月15日	自 平成30年 6月16日 至 平成30年12月17日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託として、有価証券、デリバティブ取引等の金融商品の運用を投資信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、公社債に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	コンプライアンス部では、運用状況のモニタリング、運用に関する法令諸規則の遵守状況の確認を行っております。 また、管理部では、運用に関するリスク管理を行っております。	同左

金融商品の時価等に関する事項

項目	(平成30年6月15日現在)	(平成30年12月17日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	有価証券 「注記表(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」の「運用資産の評価基準及び評価方法」に記載しております。 デリバティブ取引 該当事項はありません。 上記以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。	有価証券 同左 デリバティブ取引 同左 上記以外の金融商品 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価格のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

（有価証券に関する注記）

該当事項はありません。

（デリバティブ取引等に関する注記）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

平成30年6月15日現在		平成30年12月17日現在	
1口当たり純資産額	0.9985円	1口当たり純資産額	0.9980円
（1万口当たり純資産額）	（9,985円）	（1万口当たり純資産額）	（9,980円）

（元本の移動）

区分	自 平成29年12月16日 至 平成30年 6月15日	自 平成30年 6月16日 至 平成30年12月17日
投資信託財産に係る元本の状況		
期首	平成29年12月16日	平成30年 6月16日
期首元本額	51,970,693円	51,970,693円
期末元本額	51,970,693円	51,970,693円
期中追加設定元本額	- 円	- 円
期中一部解約元本額	- 円	- 円
元本の内訳		
3つの財布 欧州銀行株式ファンド （毎月分配型）	13,977,022円	13,977,022円
3つの財布 欧州不動産関連株ファンド （毎月分配型）	9,971,025円	9,971,025円
3つの財布 米国銀行株式ファンド （毎月分配型）	9,971,025円	9,971,025円
テキサス州株式ファンド	2,299,852円	2,299,852円
3つの財布 欧州リートファンド	11,051,457円	11,051,457円
オーストラリアリートファンド （毎月分配型）	4,700,312円	4,700,312円

（注） は当該親信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

（3）附属明細表

有価証券明細表

（ア）株式

該当事項はありません。

（イ）株式以外の有価証券

該当事項はありません。

信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額及び時価の状況表

該当事項はありません。

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

「3つの財布 欧州リートファンド」

(2019年1月31日現在)

資産総額	8,140,978,704円
負債総額	19,603,491円
純資産総額(-)	8,121,375,213円
発行済口数	14,240,780,148口
1口当たり純資産額(/)	0.5703円

<参考>

純資産額計算書

カレラ マネープール マザーファンド

(2019年1月31日現在)

資産総額	51,863,123円
負債総額	5,202円
純資産総額(-)	51,857,921円
発行済口数	51,970,693口
1口当たり純資産額(/)	0.9978円

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

以下の内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

(1) 資本金等（2019年1月末日現在）

資本金の額

1億6,240万円

会社が発行する株式総数（発行可能株式総数）

1,000株

発行済株式総数

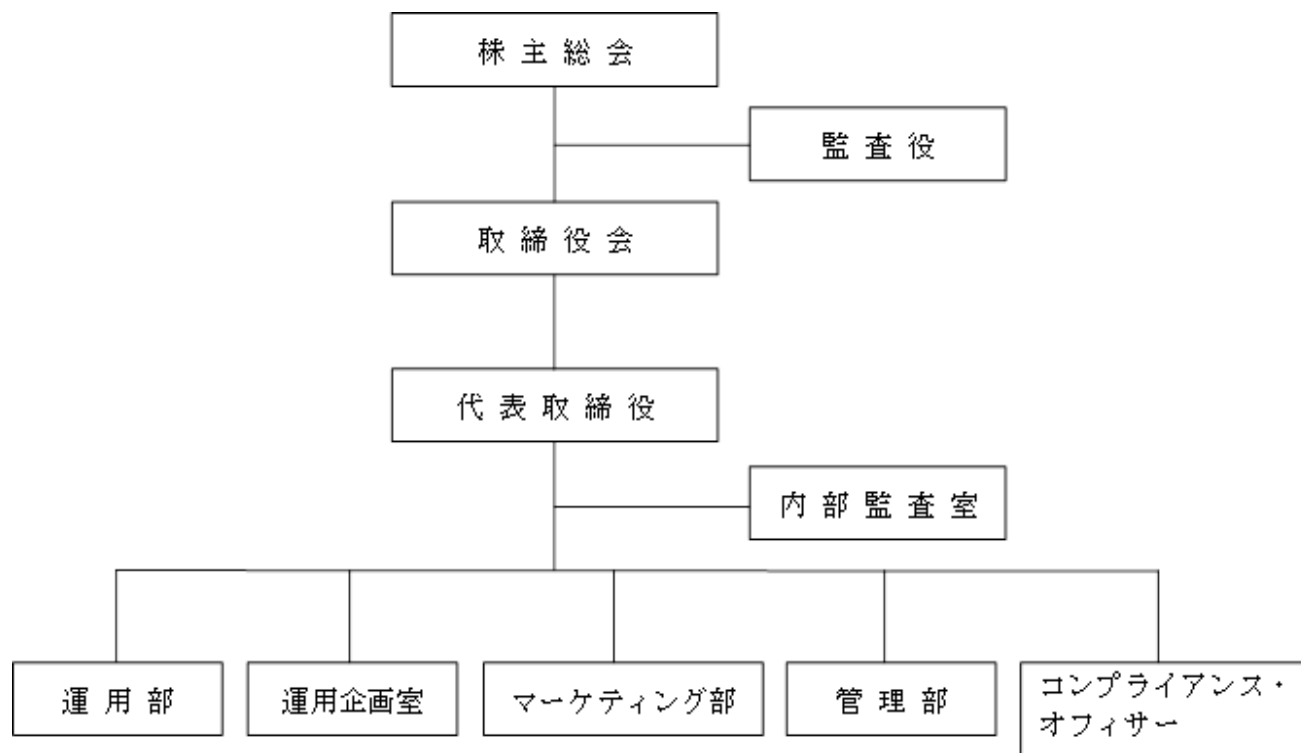
790株（普通株式）

過去5年間における資本金の増減

年月日	増資額	増資後資本金
2011年7月19日	会社設立時の資本	5,000万円
2012年6月18日	5,000万円	10,000万円
2014年8月20日	6,240万円	16,240万円

(2) 委託会社の機構

会社の組織図



(注) 上記組織は、2019年1月末日現在のものであり、今後、変更となる可能性があります。

（注）上記組織は、2019年1月末日現在のものであり、今後、変更となる可能性があります。

2【事業の内容及び営業の概況】

以下の内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

委託会社は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社で、証券投資信託の設定を行うとともに、「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者（投資運用業）で、投資信託委託業務（投資信託の運用、管理）を行っております。

2019年1月末日現在、委託会社の運用する証券投資信託は、以下の通りです。

種類			本数	純資産総額
公募	追加型	株式投資信託	22本	62,222百万円
合計			22本	62,222百万円

（親投資信託を除く）

3【委託会社等の経理状況】

以下の内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

- (1) 当社の財務諸表は、改正後の「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の中間財務諸表は、改正後の「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号。以下「中間財務諸表等規則」という。)並びに同規則第38条及び第57条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)に基づいて作成しております。
- (3) 財務諸表の記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。
- (4) 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第7期事業年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の財務諸表について、UHY東京監査法人により監査を受けております。また、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第8期事業年度の中間会計期間(平成30年4月1日から平成30年9月30日まで)の中間財務諸表について、UHY東京監査法人により中間監査を受けております。

財務諸表等

1 財務諸表

(1) 【貸借対照表】

区分	注記 番号	第6期 (平成29年3月31日現在)		第7期 (平成30年3月31日現在)	
		金額(千円)		金額(千円)	
(資産の部)					
流動資産					
1			518,218		628,620
2			2,090		958
3			112		118
4			104,032		109,551
5			21,097		23,358
6			3,086		4,648
7			264		241
8			20		-
			648,922		767,497
流動資産合計					
固定資産					
1	1		2,302		1,755
(1)		2,302		1,755	
2			1,303		823
(1)		1,303		823	
3			20		82
(1)		2		82	
(2)		18		-	
			3,626		2,662
固定資産合計					
繰延資産					
1	2		733		450
			733		450
繰延資産合計					
資産合計					
			653,282		770,609

区分	注記 番号	第 6 期 (平成29年 3月31日現在)		第 7 期 (平成30年 3月31日現在)	
		金額(千円)		金額(千円)	
(負債の部)					
流動負債					
1 未払金			101,109		111,383
(1) 未払手数料	3	61,333		66,146	
(2) その他未払金		39,775		45,237	
2 未払法人税等			12,219		37,501
3 未払消費税等			3,482		6,895
4 賞与引当金			5,500		5,900
流動負債合計			122,311		161,681
固定負債					
1 退職給付引当金			-		84
固定負債合計			-		84
負債合計			122,311		161,765
(純資産の部)					
株主資本					
1 資本金			162,400		162,400
2 資本剰余金			162,400		162,400
(1) 資本準備金		162,400		162,400	
3 利益剰余金			206,171		284,043
(1) その他利益剰余金					
繰越利益剰余金		206,171		284,043	
株主資本合計			530,971		608,843
純資産合計			530,971		608,843
負債及び純資産合計			653,282		770,609

(2) 【損益計算書】

区分	注記 番号	第6期 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		第7期 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
		金額(千円)		金額(千円)	
営業収益					
1 委託者報酬			918,285		1,020,057
2 投資助言報酬			2,745		3,088
営業収益合計			921,031		1,023,146
営業費用					
1 支払手数料	1		589,103		666,223
2 委託計算費			30,149		30,893
3 広告宣伝費			1,851		1,851
4 調査費			7,282		7,463
5 営業雑経費			13,228		13,834
(1) 通信費		1,357		1,355	
(2) 協会費		1,722		1,499	
(3) 印刷費		10,149		10,980	
営業費用合計			641,616		720,267
一般管理費					
1 給料			84,142		89,887
(1) 役員報酬		12,002		12,002	
(2) 給料・手当		55,727		61,170	
(3) 賞与		5,442		5,002	
(4) 法定福利費		10,970		11,711	
2 旅費交通費			3,138		3,745
3 不動産賃借料			2,997		2,995
4 業務委託費			2,692		2,863
5 賞与引当金繰入			5,500		5,900
6 退職給付引当金繰入			2,093		1,625
7 租税公課			4,360		4,845
8 減価償却費	2		2,069		1,331
9 その他一般管理費			9,633		11,409
一般管理費合計			116,628		124,604
営業利益			162,786		178,274

区分	注記 番号	第 6 期 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日)		第 7 期 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成30年 3 月31日)	
		金額(千円)		金額(千円)	
営業外収益	3				
1 受取利息			1		0
2 雑収入			11		0
3 賞与引当金戻入			1,545		537
営業外収益合計			1,558		538
営業外費用					
1 繰延資産償却			1,227		283
営業外費用合計			1,227		283
経常利益			163,116		178,529
税引前当期純利益			163,116		178,529
法人税、住民税及び事業税			46,372		58,059
法人税等調整額		5,473		-1,642	
当期純利益		111,271		122,112	

(3) 【株主資本等変動計算書】

区分	第 6 期 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日)	第 7 期 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成30年 3 月31日)
	金額 (千円)	金額 (千円)
株主資本		
資本金		
当期首残高	162,400	162,400
当事業年度中の変動額		
増資	-	-
当事業年度中の変動額合計	-	-
当期末残高	162,400	162,400
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	162,400	162,400
当事業年度中の変動額		
増資	-	-
当事業年度中の変動額合計	-	-
当期末残高	162,400	162,400
資本剰余金合計		
当期首残高	162,400	162,400
当事業年度中の変動額		
増資	-	-
当事業年度中の変動額合計	-	-
当期末残高	162,400	162,400
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		
当期首残高	146,250	206,171
当事業年度中の変動額		
当期純利益	111,271	122,112
剰余金の配当	51,350	44,240
当事業年度中の変動額合計	59,921	77,872
当期末残高	206,171	284,043

区分	第6期 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	第7期 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
	金額(千円)	金額(千円)
利益剰余金合計		
当期首残高	146,250	206,171
当事業年度中の変動額		
当期純利益	111,271	122,112
剰余金の配当	51,350	44,240
当事業年度中の変動額合計	59,921	77,872
当期末残高	206,171	284,043
株主資本合計		
当期首残高	471,050	530,971
当事業年度中の変動額		
増資	-	-
当期純利益	111,271	122,112
剰余金の配当	51,350	44,240
当事業年度中の変動額合計	59,921	77,872
当期末残高	530,971	608,843
純資産合計		
当期首残高	471,050	530,971
当事業年度中の変動額		
増資	-	-
当期純利益	111,271	122,112
剰余金の配当	51,350	44,240
当事業年度中の変動額合計	59,921	77,872
当期末残高	530,971	608,843

重要な会計方針

1 繰延資産の償却方法	(1) 入会金 繰延資産として計上した一般社団法人投資信託協会及び一般社団法人日本投資顧問業協会への入会金は、資産として繰延べ、5年均等償却しております。
2 固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産(リース資産を除く) 定額法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下の通りであります。 器具備品 3年~20年 (2) 無形固定資産(リース資産を除く) 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。
3 引当金の計上基準	(1) 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。 (2) 退職給付引当金(前払年金費用) 従業員の退職給付に備えるため、事業年度末における退職給付債務及び年金資産に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しております。
4 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 税抜方式によるおります。

注記事項

(貸借対照表関係)

第6期 (平成29年3月31日現在)	第7期 (平成30年3月31日現在)
<p>1. 固定資産の減価償却累計額は次の通りであります。</p> <p>有形固定資産の減価償却累計額</p> <p>器具備品 4,608千円</p> <p>無形固定資産の減価償却累計額</p> <p>ソフトウェア 3,378千円</p> <p>2. 繰延資産の償却累計額は次の通りであります。</p> <p>繰延資産償却累計額 5,823千円</p> <p>創立費償却累計額 556千円</p> <p>入会金償却累計額 5,266千円</p> <p>3. 関係会社に対する負債は次の通りであります。</p> <p>(流動負債)</p> <p>未払手数料 58,773千円</p>	<p>1. 固定資産の減価償却累計額は次の通りであります。</p> <p>有形固定資産の減価償却累計額</p> <p>器具備品 4,249千円</p> <p>無形固定資産の減価償却累計額</p> <p>ソフトウェア 3,858千円</p> <p>2. 繰延資産の償却累計額は次の通りであります。</p> <p>繰延資産償却累計額 6,106千円</p> <p>創立費償却累計額 556千円</p> <p>入会金償却累計額 5,550千円</p> <p>3. 関係会社に対する負債は次の通りであります。</p> <p>(流動負債)</p> <p>未払手数料 62,219千円</p>

(損益計算書関係)

第6期 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	第7期 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
<p>1. 関係会社との取引に係るものが次の通り含まれております。</p> <p>支払手数料 551,939千円</p> <p>2. 減価償却費の内容は次の通りであります。</p> <p>減価償却費額 2,069千円</p> <p>有形固定資産減価償却費額 1,171千円</p> <p>無形固定資産減価償却費額 898千円</p> <p>3. 繰延資産償却の内容は次の通りであります。</p> <p>繰延資産償却額 1,227千円</p> <p>創立費償却額 27千円</p> <p>入会金償却額 1,200千円</p>	<p>1. 関係会社との取引に係るものが次の通り含まれております。</p> <p>支払手数料 610,861千円</p> <p>2. 減価償却費の内容は次の通りであります。</p> <p>減価償却費額 1,331千円</p> <p>有形固定資産減価償却費額 851千円</p> <p>無形固定資産減価償却費額 480千円</p> <p>3. 繰延資産償却の内容は次の通りであります。</p> <p>繰延資産償却額 283千円</p> <p>入会金償却額 283千円</p>

（株主資本等変動計算書関係）

第6期（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1．発行済株式の種類及び総数に関する事項

	前事業年度末 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式 普通株式	790株	-	-	790株
合計	790株	-	-	790株

2．自己株式の種類及び株式数に関する事項

該当事項はありません。

3．配当に関する事項

（1）配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成28年6月16日 定時株主総会	普通株式	51,350	65,000	平成28年3月31日	平成28年6月17日

（2）基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成29年6月21 日 定時株主総会	普通株式	44,240	利益剰余金	56,000	平成29年3月31 日	平成29年6月22 日

第7期（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1．発行済株式の種類及び総数に関する事項

	前事業年度末 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式 普通株式	790株	-	-	790株
合計	790株	-	-	790株

2．自己株式の種類及び株式数に関する事項

該当事項はありません。

3．配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月21日 定時株主総会	普通株式	44,240	56,000	平成29年3月31日	平成29年6月22日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成30年6月20 日 定時株主総会	普通株式	48,190	利益剰余金	61,000	平成30年3月31 日	平成30年6月21 日

(リース取引関係)

第6期（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

ファイナンス・リース取引の内容は次の通りであります。

リース取引開始日が、平成20年4月1日以降の所有権移転外ファイナンス・リース取引

ただし、一契約のリース料総額が300万円以下の取引であるため、従来通り「賃貸借処理」を行っております。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末

残高相当額

(単位：千円)

	取得価額相当額	減価償却累計額 相当額	期末 残高相当額
コピー複合機一式	804	67	737
合計	804	67	737

(2) 未経過リース料期末残高相当額

1年内 155千円

1年超 624千円

合計 779千円

(3) 支払リース料、減価償却費相当額、支払利息相当額、リース資産除却損及びリース債務解約損

支払リース料 217千円

減価償却費相当額 154千円

支払利息相当額 16千円

リース資産除却損 37千円

リース債務解約損 0千円

(4) 減価償却費相当額の算定方法及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への分配方法については、利息法によっております。

第7期（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

ファイナンス・リース取引の内容は次の通りであります。

リース取引開始日が、平成20年4月1日以降の所有権移転外ファイナンス・リース取引
ただし、一契約のリース料総額が300万円以下の取引であるため、従来通り「賃貸借処理」を
行っております。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末

残高相当額

(単位：千円)

	取得価額相当額	減価償却累計額 相当額	期末 残高相当額
コピー複合機一式	804	227	576
合計	804	227	576

(2) 未経過リース料期末残高相当額

1年内 163千円

1年超 461千円

合計 624千円

(3) 支払リース料、減価償却費相当額、支払利息相当額、リース資産除却損及びリース債務解約損

支払リース料 190千円

減価償却費相当額 160千円

支払利息相当額 35千円

リース資産除却損 0千円

リース債務解約損 0千円

(4) 減価償却費相当額の算定方法及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への分配
方法については、利息法によっております。

（金融商品に関する注記）

1．金融商品の状況に関する事項

（1）金融商品に関する取組方針

当社は、経営方針に基づいて資金調達計画を決定いたしますが、当期会計期間においては新規の出資による資金調達は行っておりません。また、当期会計期間において銀行借入れによる調達も行っておりません。

（2）金融商品の内容及びそのリスク

当社の営業債権は、契約により決定された委託者報酬等の計上に限定されるため、信用リスクに晒されることはほとんどないと認識しております。

（3）金融商品にかかるリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行にかかるリスク）の管理

当社の営業債権は、契約により金額が決定されるため、滞留債権が発生することはほとんどなく、営業債権について信用リスクに晒されることはほとんどないと認識しております。

市場リスク（為替や金利などの変動リスク）の管理

当社は、投資信託財産の為替変動リスクの回避又は効率的運用を図るため、外国為替の売買予約を行うことができるものとし、その取扱いについては、投資信託約款及び社内規程において定めるところによるものといたします。

資金調達にかかる流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、銀行借入れによる資金調達を行っておらず、親会社からの出資に依存して資金調達を行います。資金管理責任者は、常に資金繰りの状況を把握し、資金の調達または運用に関する確な施策を講じるとともに、手元流動性の維持等により流動性リスクを管理しています。

（4）金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

第6期（平成29年3月31日現在）

平成29年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りです。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	518,218	518,218	-
(2) 未収委託者報酬	104,032	104,032	-
(3) 未収投資助言報酬	264	264	-
(4) 未収入金	21,097	21,097	-
資産計	643,612	643,612	
(5) 未払金	(101,109)	(101,109)	-
未払手数料	(61,333)	(61,333)	-
その他未払金	(39,775)	(39,775)	-

(注) 負債に計上されているものについては、()で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに投資有価証券及びデリバティブに関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 未収委託者報酬、(3) 未収投資助言報酬、(4) 未収入金

短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

負 債

(5) 未払金（未払手数料及びその他未払金）

短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

投資有価証券、デリバティブ取引

該当事項はありません。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

該当事項はありません。

第7期（平成30年3月31日現在）

平成30年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りです。
なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	628,620	628,620	-
(2) 未収委託者報酬	109,551	109,551	-
(3) 未収投資助言報酬	241	241	-
(4) 未収入金	23,358	23,358	-
資産計	761,772	761,772	
(5) 未払金	(111,383)	(111,383)	-
未払手数料	(66,146)	(66,146)	-
その他未払金	(45,237)	(45,237)	-

（注）負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

（注）1．金融商品の時価の算定方法並びに投資有価証券及びデリバティブに関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 未収委託者報酬、(3) 未収投資助言報酬、(4) 未収入金

短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

負 債

(5) 未払金（未払手数料及びその他未払金）

短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

投資有価証券、デリバティブ取引

該当事項はありません。

2．時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

該当事項はありません。

（有価証券関係）

第6期（平成29年3月31日現在）

- 1．子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの
該当事項はありません。
- 2．その他有価証券で時価のあるもの
該当事項はありません。
- 3．時価評価されていない有価証券
該当事項はありません。

第7期（平成30年3月31日現在）

- 1．子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの
該当事項はありません。
- 2．その他有価証券で時価のあるもの
該当事項はありません。
- 3．時価評価されていない有価証券
該当事項はありません。

（税効果会計関係）

項目	第6期 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	第7期 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
	単位：千円	単位：千円
1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳	<p>繰延税金資産</p> <p>(流動)</p> <p>貯蔵品 754</p> <p>賞与引当金 1,697</p> <p>未払金 183</p> <p>未払事業税 450</p> <p>合計 3,086</p> <p>評価性引当額 -</p> <p>合計 3,086</p> <p>(固定)</p> <p>退職給付引当金 -</p> <p>長期前払費用 8</p> <p>合計 8</p> <p>評価性引当額 -</p> <p>合計 8</p> <p>繰延税金資産合計 3,094</p> <p>繰延税金負債</p> <p>(固定)</p> <p>前払年金費用 5</p> <p>合計 5</p> <p>繰延税金負債合計 5</p> <p>繰延税金資産の純額 3,089</p>	<p>繰延税金資産</p> <p>(流動)</p> <p>貯蔵品 584</p> <p>賞与引当金 1,820</p> <p>未払金 184</p> <p>未払事業税 2,058</p> <p>合計 4,648</p> <p>評価性引当額 -</p> <p>合計 4,648</p> <p>(固定)</p> <p>退職給付引当金 25</p> <p>長期前払費用 -</p> <p>一括償却資産 56</p> <p>合計 82</p> <p>評価性引当額 -</p> <p>合計 82</p> <p>繰延税金資産合計 4,731</p> <p>繰延税金負債</p> <p>(固定)</p> <p>前払年金費用 -</p> <p>合計 -</p> <p>繰延税金負債合計 -</p> <p>繰延税金資産の純額 4,731</p>
2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。	同左
3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正	<p>「所得税法等の一部を改正する法律」(平成28年法律第15号)及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」(平成28年法律第13号)が平成28年3月29日に国会で成立し、平成28年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は前事業年度の計算において使用した32.3%から平成28年4月1日に開始する事業年度及び平成29年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異等については30.9%に、平成30年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異等については、30.6%となります。</p> <p>なお、この税率変更の財務諸表に与える影響額は軽微であります。</p>	-

（セグメント情報等）

セグメント情報

第6期（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

当社は、投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

関連情報

第6期（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1．サービスごとの情報

単一のサービス区分の外部顧客への営業収益が、損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

（1）営業収益

本邦以外の外部顧客からの営業収益がないため、記載を省略しております。

（2）有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

投資信託の名称	営業収益	関連するサービスの種類
ニュージーランド株式ファンド	20,034	投資運用業
スイス株式ファンド	15,978	投資運用業
カレラ リートファンド	127,947	投資運用業
メキシコ株式ファンド	16,899	投資運用業
オランダ株式ファンド	33,872	投資運用業
カタール・アブダビ株式ファンド	10,775	投資運用業
ロシア株式ファンド	12,703	投資運用業
21世紀東京 日本株式ファンド	33,453	投資運用業
イタリア株式ファンド	20,283	投資運用業
フランス株式ファンド	22,166	投資運用業
3つの財布 欧州リートファンド	145,616	投資運用業
3つの財布 欧州銀行株式ファンド （毎月分配型）	168,319	投資運用業
スロベニア・クロアチア・ギリシャ株式ファンド	8,517	投資運用業
3つの財布 欧州不動産関連株ファンド （毎月分配型）	137,208	投資運用業
3つの財布 米国銀行株式ファンド （毎月分配型）	109,472	投資運用業
テキサス州株式ファンド	22,496	投資運用業

カレラワールド債券アクティブファンド	2,623	投資運用業
フィリピン株式ファンド	2,923	投資運用業
カレラ 日本小型株式ファンド	1,572	投資運用業
オーストラリアリートファンド	5,420	投資運用業

セグメント情報

第7期（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

当社は、投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

関連情報

第7期（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1．サービスごとの情報

単一のサービス区分の外部顧客への営業収益が、損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦以外の外部顧客からの営業収益がないため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

投資信託の名称	営業収益	関連するサービスの種類
ニュージーランド株式ファンド	19,316	投資運用業
スイス株式ファンド	17,298	投資運用業
カレラ Jリートファンド	106,829	投資運用業
メキシコ株式ファンド	17,167	投資運用業
オランダ株式ファンド	37,303	投資運用業
カタール・アブダビ株式ファンド	8,330	投資運用業
ロシア株式ファンド	12,215	投資運用業
21世紀東京 日本株式ファンド	34,673	投資運用業
イタリア株式ファンド	22,508	投資運用業
フランス株式ファンド	23,525	投資運用業
3つの財布 欧州リートファンド	135,060	投資運用業
3つの財布 欧州銀行株式ファンド (毎月分配型)	197,190	投資運用業
スロベニア・クロアチア・ギリシャ株式ファンド	9,167	投資運用業
3つの財布 欧州不動産関連株ファンド (毎月分配型)	134,368	投資運用業
3つの財布 米国銀行株式ファンド (毎月分配型)	134,932	投資運用業
テキサス州株式ファンド	24,886	投資運用業

カレラワールド債券アクティブファンド	2,759	投資運用業
フィリピン株式ファンド	3,133	投資運用業
カレラ 日本小型株式ファンド	3,262	投資運用業
オーストラリアリートファンド	62,994	投資運用業
カレラ 米国小型株式アクティブファンド	9,155	投資運用業
中欧株式ファンド	3,712	投資運用業

（関連当事者との取引）

第6期（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1．関連当事者との取引

（ア）財務諸表提出会社の親会社及び主要株主等

属性	会社等の名称	住所	資本金 (百万円)	事業の 内容	議決権等の 被所有割合 (%)	関係内容		取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
親会社	安藤証券（株）	愛知県 名古屋市	2,280	金融商品 取引業者	50.6	あり	投資信託 の販売等	証券代行	551,939	未払手数料	58,773

（注）1 取引金額には消費税等は含んでおりません。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

支払手数料については、一般的な契約条件を参考に価格及びその他の条件を決定しております。

2．親会社又は重要な関連会社に関する注記

（1）親会社情報

安藤証券株式会社（非上場）

（2）重要な関連会社

該当事項はありません。

第7期（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1．関連当事者との取引

（ア）財務諸表提出会社の親会社及び主要株主等

属性	会社等の名称	住所	資本金 (百万円)	事業の 内容	議決権等の 被所有割合 (%)	関係内容		取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
親会社	安藤証券（株）	愛知県 名古屋市	2,280	金融商品 取引業者	50.6	あり	投資信託 の販売等	証券代行	610,861	未払手数料	62,219

（注）1 取引金額には消費税等は含んでおりません。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

支払手数料については、一般的な契約条件を参考に価格及びその他の条件を決定しております。

2．親会社又は重要な関連会社に関する注記

（1）親会社情報

安藤証券株式会社（非上場）

（2）重要な関連会社

該当事項はありません。

（ 1株当たり情報）

項目	第6期 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	第7期 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	672,115円71銭	770,688円16銭
1株当たり当期純利益	140,849円38銭 なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	154,572円45銭 なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（注） 1株当たり純資産額の算定上の基礎

項目	第6期 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	第7期 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
貸借対照表の純資産の部の合計額(千円)	530,971	608,843
普通株式以外に帰属する純資産合計額(千円)	-	-
普通株式に係る当事業年度末の純資産額(千円)	530,971	608,843
普通株式の当事業年度末株式数(株)	790	790

（注） 1株当たり当期純利益の算定上の基礎

項目	第6期 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	第7期 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
損益計算書上の当期純利益(千円)	111,271	122,112
普通株式以外に帰属する純利益(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	111,271	122,112
普通株式の当期中平均株式数(株)	790	790

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

中間財務諸表等

1 中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

		当中間会計期間末 (平成30年9月30日現在)	
区分	注記 番号	金額(千円)	
(資産の部)			
流動資産			
1		現金及び預金	614,470
2		前払費用	197
3		未収委託者報酬	101,686
4		未収投資助言報酬	246
5		未収入金	23,122
		流動資産合計	739,723
固定資産			
1	1	有形固定資産	1,682
		(1) 器具備品	1,682
2		無形固定資産	633
		(1) ソフトウェア	633
3		投資その他の資産	4,263
		(1) 繰延税金資産	4,242
		(2) 前払年金費用	21
		固定資産合計	6,579
繰延資産			
1	2	入会金	350
		繰延資産合計	350
		資産合計	746,653

		当中間会計期間末 (平成30年9月30日現在)	
区分	注記 番号	金額(千円)	
(負債の部)			
流動負債			
1 未払金			97,440
(1) 未払手数料	3	62,891	
(2) その他未払金		34,549	
2 未払法人税等			25,849
3 未払消費税等			5,210
4 賞与引当金			6,300
流動負債合計			134,800
固定負債			
固定負債合計			-
負債合計			134,800
(純資産の部)			
株主資本			
1 資本金			162,400
2 資本剰余金			162,400
(1) 資本準備金		162,400	
3 利益剰余金			287,052
(1) その他利益剰余金			
繰越利益剰余金		287,052	
株主資本合計			611,852
純資産合計			611,852
負債及び純資産合計			746,653

(2) 中間損益計算書

区分	注記 番号	当中間会計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)	
		金額(千円)	
営業収益			
1 委託者報酬			489,460
2 投資助言報酬	1		1,561
営業収益合計			491,022
営業費用			
1 支払手数料	2		318,238
2 委託計算費			16,484
3 広告宣伝費			1,851
4 調査費			3,703
5 営業雑経費			7,987
(1) 通信費		726	
(2) 協会費		950	
(3) 印刷費		6,311	
営業費用合計			348,267
一般管理費			
1 給料			48,655
(1) 役員報酬		6,000	
(2) 給料・手当		35,876	
(3) 法定福利費		6,779	
2 旅費交通費			1,643
3 不動産賃借料			1,447
4 業務委託費			800
5 賞与引当繰入			6,300
6 退職給付引当金繰入			955
7 租税公課			2,294
8 減価償却費	3		573
9 その他一般管理費			4,719
一般管理費合計			67,388
営業利益			75,366

		当中間会計期間 (自 平成30年 4月 1日 至 平成30年 9月30日)		
区分	注記 番号	金額(千円)		
営業外収益	4			
1 受取利息			0	
2 雑収入			36	
営業外収益合計			36	
営業外費用				
1 繰延資産償却			100	
営業外費用合計			100	
経常利益			75,303	
税引前中間純利益			75,303	
法人税、住民税及び事業税			23,615	
法人税等調整額			488	
中間純利益		51,198		

(3) 中間株主資本等変動計算書

	当中間会計期間 (自 平成30年 4月 1日 至 平成30年 9月30日)
区分	金額(千円)
株主資本	
資本金	
当期首残高	162,400
当中間会計期間の変動額	
当中間会計期間の変動額合計	-
当中間会計期間末残高	162,400
資本剰余金	
資本準備金	
当期首残高	162,400
当中間会計期間の変動額	
当中間会計期間の変動額合計	-
当中間会計期間末残高	162,400
資本剰余金合計	
当期首残高	162,400
当中間会計期間の変動額	
当中間会計期間の変動額合計	-
当中間会計期間末残高	162,400
利益剰余金	
その他利益剰余金	
繰越利益剰余金	
当期首残高	284,043
当中間会計期間の変動額	
当中間会計期間純利益	51,198
剰余金の配当	-48,190
当中間会計期間の変動額合計	3,008
当中間会計期間末残高	287,052

	当中間会計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
区分	金額(千円)
利益剰余金合計	
当期首残高	284,043
当中間会計期間の変動額	
当中間会計期間純利益	51,198
剰余金の配当	-48,190
剰余金の配当中間会計期間の変動額合計	3,008
当中間会計期間末残高	287,052
株主資本合計	
当期首残高	608,843
当中間会計期間の変動額	
当中間会計期間純利益	51,198
剰余金の配当	-48,190
当中間会計期間の変動額合計	3,008
当中間会計期間末残高	611,852
純資産合計	
当期首残高	608,843
当中間会計期間純利益	51,198
剰余金の配当	-48,190
当中間会計期間の変動額合計	3,008
当中間会計期間末残高	611,852

重要な会計方針

項目	当中間会計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
1 繰延資産の償却方法	(1) 入会金 繰延資産として計上した入会金は、資産として繰延べ、5年均等償却しております。
2 固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 定額法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下の通りであります。 器具備品 3年～20年 (2) 無形固定資産（リース資産を除く） 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。
3 引当金の計上基準	(1) 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。 (2) 前払年金費用 従業員の退職給付に備えるため、事業年度末における退職給付債務及び年金資産に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。
4 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 税抜方式によっております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を当中間会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

注記事項

（中間貸借対照表関係）

当中間会計期間 (自 平成30年 4月 1日 至 平成30年 9月30日)	
1．固定資産の減価償却累計額は次の通りであります。	
有形固定資産の減価償却累計額	
器具備品	4,633千円
無形固定資産の減価償却累計額	
ソフトウェア	4,048千円
2．繰延資産の償却累計額は次の通りであります。	
繰延資産償却累計額	6,206千円
創立費償却累計額	556千円
入会金償却累計額	5,650千円
3．関係会社に対する負債は次の通りであります。	
（流動負債）	
未払手数料	59,033千円

（中間損益計算書関係）

当中間会計期間 (自 平成30年 4月 1日 至 平成30年 9月30日)	
1．営業収益の投資助言報酬は、平成27年 6月15日に業務の種別に係る変更登録につき、投資助言・代理業の追加を行い計上するものであります。	
2．関係会社との取引に係るものが次の通り含まれております。	
支払手数料	290,044千円
3．減価償却費の内容は次の通りであります。	
減価償却費額	573千円
有形固定資産減価償却費額	383千円
無形固定資産減価償却費額	189千円
4．繰延資産償却の内容は次の通りであります。	
入会金償却額	100千円

(中間株主資本等変動計算書関係)

当中間会計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	前事業年度末 株式数	当中間会計期間 増加株式数	当中間会計期間 減少株式数	当中間会計期間末 株式数
発行済株式				
普通株式	790株	-	-	790株
合計	790株	-	-	790株

2. 配当に関する事項 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成30年6月20日 定時株主総会	普通株式	48,190	61,000	平成30年 3月31日	平成30年6月20日

自己株式の種類及び株式数に関する事項

該当事項はありません。

(リース取引関係)

当中間会計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

ファイナンス・リース取引の内容は次の通りであります。

リース取引開始日が、平成20年4月1日以降の所有権移転外ファイナンス・リース取引
ただし、一契約のリース料総額が300万円以下の取引であるため、従来通り「賃貸借処理」
を行っております。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び当中間会計期間末

残高相当額

(単位：千円)

	取得価額相当額	減価償却累計額 相当額	当中間会計期間末 残高相当額
コピー複合機一式	804	308	495
合計	804	308	495

(2) 未経過リース料当中間会計期間末残高相当額

1年内 167千円

1年超 376千円

合計 544千円

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

支払リース料 95千円

減価償却費相当額 80千円

支払利息相当額 14千円

(4) 減価償却費相当額の算定方法及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への分
配方法については、利息法によっております。

（金融商品に関する注記）

当中間会計期間末(平成30年9月30日)

金融商品の時価等に関する事項

平成30年9月30日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	614,470	614,470	-
(2) 未収委託者報酬	101,686	101,686	-
(3) 未収入金	23,122	23,122	-
資産計	739,280	739,280	
(4) 未払金	(97,440)	(97,440)	-
未払手数料	(62,891)	(62,891)	-
その他未払金	(34,549)	(34,549)	-
負債計	(97,440)	(97,440)	

（注）負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

（注）1．金融商品の時価の算定方法並びに投資有価証券及びデリバティブに関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 未収委託者報酬、(3) 未収入金

短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

負 債

(4) 未払金（未払手数料及びその他未払金）

短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

投資有価証券、デリバティブ取引

該当事項はありません。

2．時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

該当事項はありません。

（有価証券関係）

当中間会計期間末(平成30年9月30日)

1．子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの

該当事項はありません。

2．その他有価証券で時価のあるもの

該当事項はありません。

3．時価評価されていない有価証券

該当事項はありません。

（税効果会計関係）

項目	当中間会計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
1 繰延税金資産の発生の主な原因別の内訳	繰延税金資産
	(固定)
	貯蔵品 686
	賞与引当金 1,929
	未払金 34
	未払事業税 1,521
	退職給付引当金 -
	一括償却資産 77
	前払い年金費用 -6
	合計 4,242
評価性引当額 0	
合計 4,242	
繰延税金資産合計 4,242	
2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

（セグメント情報等）

セグメント情報

当中間会計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）

当社は、投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

関連情報

当中間会計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）

1．サービスごとの情報

当社は、投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦以外の外部顧客からの営業収益がないため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

投資信託の名称	営業収益	関連するサービスの種類
ニュージーランド株式ファンド	9,437	投資運用業
スイス株式ファンド	8,220	投資運用業
カレラ Jリートファンド	56,795	投資運用業
メキシコ株式ファンド	7,631	投資運用業
オランダ株式ファンド	16,958	投資運用業
カタール・アブダビ株式ファンド	3,776	投資運用業
ロシア株式ファンド	6,108	投資運用業
21世紀東京 日本株式ファンド	16,963	投資運用業
イタリア株式ファンド	10,151	投資運用業
フランス株式ファンド	11,885	投資運用業
3つの財布 欧州リートファンド	60,926	投資運用業
3つの財布 欧州銀行株式ファンド （毎月分配型）	82,243	投資運用業
スロベニア・クロアチア・ ギリシャ株式ファンド	4,246	投資運用業
3つの財布 欧州不動産関連株ファンド （毎月分配型）	60,868	投資運用業
3つの財布 米国銀行株式ファンド （毎月分配型）	71,807	投資運用業
テキサス州株式ファンド	12,591	投資運用業
カレラ ワールド債券アクティブファンド	1,245	投資運用業
フィリピン株式ファンド	1,376	投資運用業
カレラ 日本小型株式ファンド	2,437	投資運用業
オーストラリアリートファンド	29,008	投資運用業
カレラ 米国小型株式アクティブファンド	7,692	投資運用業
中欧株式ファンド	7,087	投資運用業

（ 1株当たり情報）

項目	当中間会計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
1株当たり純資産額	774,496円94銭
1株当たり当中間会計期間純利益	64,808円78銭
	なお、潜在株式調整後1株当たり当中間会計期間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

（注） 1株当たり当中間会計期間純資産額の算定上の基礎

項目	当中間会計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
中間貸借対照表の純資産の部の合計額(千円)	611,852
普通株式以外に帰属する純資産合計額(千円)	-
普通株式に係る当中間会計期間末の純資産額(千円)	611,852
普通株式の当中間会計期間末株式数(株)	790

（注） 1株当たり当中間会計期間純利益及び当中間会計期間純損失の算定上の基礎

項目	当中間会計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
中間損益計算書上の当中間会計期間純利益(千円)	51,198
普通株式以外に帰属する純利益(千円)	-
普通株式に係る当中間会計期間純利益(千円)	51,198
普通株式の当中間会計期間中平均株式数(株)	790

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

以下の内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

受託会社

名 称

三菱UFJ信託銀行株式会社

資本金の額

324,279百万円（2019年1月末日現在）

事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

<参考> 再信託受託会社の概要

名 称

日本マスタートラスト信託銀行株式会社

資本金の額

10,000百万円（2019年1月末日現在）

事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

関係業務の概要

受託会社より委託を受け、当ファンドの信託事務の一部（信託財産の管理等）を行います。

販売会社

名 称	資本金の額	事業の内容
安藤証券株式会社	2,280百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

2019年3月15日現在

3【資本関係】

<訂正前>

販売会社である安藤証券株式会社は、委託会社であるカレラアセットマネジメント株式会社の株式を400株保有しており、平成30年7月末日現在の発行済普通株式数に対する比率は、50.6%です。

その他の上記関係法人との間に資本関係はありません。

<訂正後>

販売会社である安藤証券株式会社は、委託会社であるカレラアセットマネジメント株式会社の株式を400株保有しており、2019年1月末日現在の発行済普通株式数に対する比率は、50.6%です。

その他の上記関係法人との間に資本関係はありません。

第3【その他】

以下の内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

1. 金融商品取引法第15条第2項本文に規定するあらかじめ又は同時に交付しなければならない目論見書（以下「交付目論見書」といいます。）の名称を「投資信託説明書（交付目論見書）」、また、金融商品取引法第15条第3項本文に規定する交付の請求があった時に直ちに交付しなければならない目論見書（以下「請求目論見書」といいます。）の名称を「投資信託説明書（請求目論見書）」と記載することがあります。
2. 目論見書の表紙等にロゴ・マーク、図案及びその注釈、キャッチコピー並びにファンドの基本的性格等を記載することがあります。
3. 目論見書の表紙等に以下の趣旨の事項を記載することがあります。

ファンドの信託財産は、信託法に基づき受託会社において分別管理されています。

本書は、金融商品取引法第13条の規定に基づく目論見書です。

交付目論見書にはファンドの約款の主な内容が含まれておりますが、約款の全文は請求目論見書に掲載されております。

ファンドに関する請求目論見書は、委託会社のホームページで閲覧、ダウンロードできます。

ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みください。
4. 目論見書の表紙に目論見書の使用開始日を記載します。
5. 目論見書の表紙等にファンドの管理番号等を記載することがあります。
6. 交付目論見書の表紙等に委託会社のインターネットホームページのアドレスに加え、他のインターネットのアドレス（当該アドレスをコード化した図形等も含みます。）を掲載することがあります。また、これらのアドレスにアクセスすることにより基準価額等の情報を入手できる旨を記載することがあります。
7. 有価証券届出書に記載された内容を明瞭に表示するため、目論見書にグラフ、図表等を使用することがあります。
8. 目論見書は電子媒体などとして使用されるほか、インターネットなどに掲載されることがあります。
9. 目論見書に投信評価機関、投信評価会社等によるレーティング、評価情報及び評価分類等を表示することがあります。また、投資対象の投資信託証券等に関して、投信評価機関、投信評価会社等によるレーティング、評価情報及び評価分類等を表示することがあります。
10. 有価証券届出書に記載された運用実績の参考情報のデータを適時更新し、目論見書に記載することがあります。

独立監査人の監査報告書

平成31年2月25日

カレラアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

UHY東京監査法人

指定社員 公認会計士 若槻 明 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている3つの財布 欧州リートファンドの平成30年6月16日から平成30年12月17日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、3つの財布 欧州リートファンドの平成30年12月17日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

カレラアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注1) 上記は、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は、当社が別途保管しております。
- (注2) X B R L データは監査の対象には含まれておりません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成30年6月11日

カレラアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

UHY東京監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 若槻 明 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているカレラアセットマネジメント株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第7期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、カレラアセットマネジメント株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注1) 上記は、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は、当社が別途保管しております。
- (注2) X B R L データは監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の中間監査報告書

平成30年11月13日

カレラアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

UHY東京監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 若槻 明 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているカレラアセットマネジメント株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの第8期事業年度の中間会計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、カレラアセットマネジメント株式会社の平成30年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注1) 上記は、独立監査人の中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は、当社が別途保管しております。
- (注2) X B R L データは監査の対象には含まれておりません。